

令和7年度
那覇市の未来の担い手育成に向けた
キャリア教育支援事業
成果報告書

那覇市未来育成キャリア支援事業共同企業体

第1章 事業概要 -----P. 3

1. 業務委託名
2. 目的
3. 委託業務期間
4. 実施主体
5. 実施機関（受託者）
6. 業務内容

第2章 令和7年度 活動概要、事業総括と次年度への提言 -----P. 5

1. 実施の特色やねらい、活動概要 -----P. 5
2. 今年度の実績 -----P. 6
 - (1) 各校の実施一覧
 - (2) 分野・業種別実施一覧
3. 年間スケジュール -----P. 7
4. 実施総括 -----P. 10
 - (1) 取組の成果
 - (2) 受託事業者から那覇市への提言

第3章 実施報告（学校別詳細） -----

P. 18

1. 実施報告

小禄中学校	-----P. 18
松島小学校	-----P. 22
金城中学校	-----P. 25
松川小学校	-----P. 29
松島中学校	-----P. 33
石田中学校	-----P. 38
真和志中学校	-----P. 42
古蔵中学校	-----P. 46
安岡中学校	-----P. 49
城岳小学校	-----P. 53

第4章 アンケート調査の結果と分析 -----P. 56

1. 児童生徒への調査結果 -----P. 56
2. 教員向けアンケート調査結果 -----P. 53
3. 協力事業者・保護者等への調査結果 -----P. 53

付録・資料編 -----P. 0

1. アンケート集計詳細データ
2. 作成したパッケージ資料・マニュアル一式（サンプル）
3. 周知広報実績（配布物、メディア露出記録）

第1章 事業概要

1. 業務委託名

「令和7年度 那覇市の未来の担い手育成に向けたキャリア教育支援事業」に係る業務委託

2. 目的

本県の雇用情勢は、コロナ禍を経て急速な回復傾向にあり、観光関連産業を中心に人材不足が大きな課題となっているが、本県の非正規雇用率や若年層における早期離職率の高さは、依然として全国を上回っている。離職率が高い要因の一つとして雇用のミスマッチ等が挙げられており、それら課題の解決に向けて、より早期からの職業意識の醸成や、職業観、キャリアデザインの形成に取り組んでいくことが重要であり、新たな時代変化のもと従来の枠組みに捉われない新しい人材育成により、自立的に未来を切り拓く人材の輩出が求められている。

そこで、本事業を通じて、本市の産業発展を担う子どもたちの正しい産業理解の促進や、早期からの職業観・勤労観を育成し、働くことへの憧れや意欲を高める活動により、社会への円滑な移行を実現すると共に、那覇市の未来を担うイノベーション人材や人材確保に課題を抱える産業分野への人材の育成と輩出を図ることを目的とする。

3. 委託業務期間

令和7年6月10日～令和8年3月27日

4. 実施主体

那覇市役所 経済観光部 商工農水課

5. 実施機関（受託者）

那覇市未来育成キャリア支援事業共同企業体

6. 業務内容

(1) 教育プログラムの作成

① 企業開拓

② パッケージの作成

- ・対象分野……5分野以上（金融・起業の2分野を含むことを検討すること）
- ・必要時間数……想定される最小時間数（コマ数）を含め、5パターン程度

(2) 教育プログラムの実施

ア 活動目標：市内小中学校から複数の実施校を選定し、合計で8学年以上（1校あたり複数学年を対象とすることも可）かつ、合計時間40コマ以上のプログラムを実施することとする

イ プログラム：パッケージを基本とし、実施校と調整した上で実施すること。

ウ 本事業の手法：カリキュラムに組み込み、授業時間内の実施を原則とする。

(3) プラットフォームの構築

- ① プログラムパッケージの自走化に向けた提案
- ② 提供用事前・事後学習プログラムの作成
- ③ パッケージの改善提案

(4) 周知広報

(5) アンケート調査の実施及び分析業務

(6) 事務管理及び事務体制について

- ① 事業実施計画の策定
- ② 業務・事務体制
- ③ コーディネーターの配置
- ④ 会議の開催
- ⑤ 許認可手続き等
- ⑥ 文書や資料等の整備と保存
- ⑦ 資料及び報告書等の提出
- ⑧ その他

第2章 令和7年度活動概要活動概要と事業総括、提言

1. 実施の特色やねらい、活動概要

アフターコロナにおける雇用環境の回復に伴い、観光関連産業をはじめとする深刻な人手不足が顕在化している。その一方で、本県における非正規雇用率や若年層の早期離職率は依然として全国平均を上回る水準にあり、雇用のミスマッチ解消が喫緊の課題となっている。これらの課題解決には、義務教育段階からの職業意識の醸成とキャリアデザイン形成を促し、変化の激しい時代に対応しうる人材を育成することが不可欠である。

本事業では、子どもたちの産業理解を深め、早期から望ましい職業観・勤労観を育むことで、就労への意欲を高め、社会への円滑な移行を支援する。同時に、那覇市の将来を担うイノベーション人材の育成や、人手不足が課題となっている産業分野への将来的な人材輩出を目指す。

令和7年度は、これまでの成果を基盤とし、那覇市内全小中学校への普及と持続可能な運営体制（プラットフォーム化）の構築を推進する。特に「自走化の仕組みづくり」を最重点テーマに掲げ、教育現場と産業界がダイレクトにつながり、地域全体で子どもたちを育む体制の具現化に注力する

① 専門学校のプロ講師による質の高い職業教育の展開

県内44校の多種多様な専門分野を持つプロ講師を起用し、業界の最新情報や現場のリアルを伝える講話・体験活動を推進する。単なる知識伝達に留まらず、児童生徒の反応に応じた柔軟な指導が可能な講師陣を確保することで、実施校ごとの教育の質の平準化を図る。

② キャリア発達段階に応じた30業種の体験プログラム提供

小学生の「夢や憧れの醸成」から中学生の「現実的な進路選択」への移行を支えるため、児童生徒のニーズに基づいた30種類の広範な分野・業種を開拓する。多様な職業の選択肢を提示することで、自己の可能性を広げる機会を最大化させる。

③ 学校現場の負担軽減と教育活動の自走支援

体験学習を一過性のイベントに終わらせないため、事前・事後学習用のスライド、ワークシート、指導案等のパッケージを整備する。教諭が円滑に授業を運営できる環境を整え、学校現場での持続的なキャリア教育の自走を支援する。

④ 学習効果を補完する職業教育動画の活用促進

教諭による職業教育をサポートし、児童生徒の事前学習を深めるため、8分野の職業教育動画を自主制作・提供する。各教科の授業内でも活用しやすい10分程度の構成とし、体験学習の前後に限らず、日常的なキャリア教育の補完ツールとしての定着を目指す。

⑥ 持続可能なキャリア教育プラットフォームの基盤構築

那覇市が目指す産学官連携プラットフォームの実現に向け、各ステークホルダーとの意見・情報交換会を実施する。地域全体で子どもたちを育む体制を構築するとともに、その中核となるポータルサイト（ホームページ）を整備し、情報の集約と発信力を強化する。

2. 今年度の実績

(1) 各校の実施一覧

今年度の主要な実施実績は下表の通りである。本事業独自の「回転式パッケージ」の導入により、限られたコマ数の中で児童生徒が触れられる職業の選択肢を最大化させた。

	学校名 (学年)	実施日程	対象 人数	延べ 分野数	実施 コマ数	延べ 体験 分野数	事前 学習	事後 学習
1	小禄中学校 (2年)	8月22日	268	15	3	45	1	1
2	松島小学校 (6年)	11月13日	96	6	3	18	1	
3	金城中学校 (1年)	11月14日	172	10	3	30	1	1
4	松川小学校 (6年)	12月9日	96	6	2	12	1	1
5	松島中学校 (1年)	12月15日	214	12	3	36	1	1
6	石田中学校 (1年)	1月15日	134	7	3	21	1	
7	真和志中学校 (2年)	1月21日	83	6	3	18	1	2
8	古蔵中学校 (1年)	1月23日	191	10	2	20	1	
9	安岡中学校 (1年)	2月6日	259	15	3	45	1	
10	城岳小学校 (2年)	2月17日	88	6	2	12		
		計	1601人	93分野	27コマ	延べ 257件	9コマ	6コマ

※ 延べ体験分野数は「各校の提供分野数 × 実際の体験コマ数」の合計値であり、児童生徒に提供された「実質的な職業理解の機会」の総量を示す。

(2) 分野・業種別実施一覧

今年度は、那覇市の主要産業に加え、仕様書に基づき「金融・起業」を必須分野として組み込み、さらに専門学校（40校）との連携により、以下の8分野26業種以上の広範なプログラムを提供した。

	分野・業種名	小 禄 中 学 校	松 島 小 学 校	金 城 中 学 校	松 川 小 学 校	松 島 中 学 校	石 田 中 学 校	真 和 志 中 学 校	古 蔵 中 学 校	安 岡 中 学 校	城 岳 小 学 校	計	
1	CG・映像・ゲーム	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9	
2	自動車整備・航空整備	1	1	1		1	1	1	1	1		8	
3	漫画・アニメ・ゲームキャラクター	1		1	1		1	1	1	1	1	8	
4	メイク・ネイル・エステ	1				1	1	1	1	1	1	7	
5	保育・幼稚園・幼児教育	1	1		1	1	1			1		6	
6	美容・理容	1		1		1			1	1	1	6	
7	健康・スポーツ	1			1	1			1	1		5	
8	芸能・エンタメ・裏方スタッフ	1	1	1	1	1						5	
9	動物	1		1	1					1	1	5	
10	ホテル・ブライダル	1	1						1	1		4	
11	コンピュータ・情報・IT			1		1				1	1	4	
12	調理・製菓・栄養	1				1	1				1	4	
13	医療(看護)	1	1						1			3	
14	医療(リハビリ・柔道整復師)	1				1	1					3	
15	公務員(警察・消防等)			1						1		2	
16	公務員(県庁・市役所・役場等)					1		1				2	
17	旅行・ツアーコンダクター								1	1		2	
18	電気・機械							1		1		2	
19	医療(救急救命士・臨床工学技士)	1										1	
20	起業	1										1	
21	環境・バイオ			1								1	
22	金融			1								1	
23	経理・一般事務・税理士					1						1	
24	福祉・介護								1			1	
25	建築									1		1	
26	エアライン・空港地上スタッフ									1		1	
	希望分野数 計	15	6	10	6	12	7	6	10	15	6	93	

3. 年間スケジュール

時期	主な内容
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業開始 (6/10) ・ 那覇市との定例会議 ・ 那覇市教育委員会に事業説明および協力依頼 ・ 各書面作成開始 ・ 実施校開拓 ・ 学校調整 ・ 産業団体等に事業説明および協力依頼 ・ 小中学校校長会にて周知 (那覇市教育委員会協力)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市との定例会議 ・ 職業紹介動画プログラム作成開始、完成後協力学校の開拓 ・ 専門学校および産業団体等講師開拓 ・ 実施校開拓 ・ 学校調整
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市との定例会議 ・ 職業紹介動画制作開始 ・ 事前学習プログラム作成 ・ 実施校開拓、および調整 ・ 専門学校および産業団体等講師開拓、および調整 ・ 各種アンケート作成 ●小禄中学校：事前学習＋体験学習実施 (8/22)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市との定例会議 ・ 職業紹介動画制作編集作業等 ・ 実施校開拓、および調整 ・ 専門学校および産業団体等講師開拓、および調整 ・ アンケートとりまとめ ・ 事後学習プログラム作成 ●小禄中学校：事後学習実施 (9/26)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市との定例会議 ・ 職業紹介動画編集作業等 ・ 実施校開拓、および調整 ・ 専門学校および産業団体等講師開拓、および調整 ・ 各種アンケート作成 ・ 事前学習プログラム作成 ・ 本事業ホームページ制作開始
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市との定例会議 ・ 職業紹介動画完成、各校へ案内開始

時期	主な内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校開拓、および調整 ・専門学校および産業団体等講師開拓、および調整 ・各種アンケート作成、とりまとめ ・事前、事後学習プログラム作成 ●松島小学校：事前学習＋体験学習実施（11/13） ●金城中学校：事前学習＋体験学習実施（11/14）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市との定例会議 ・学校調整 ・講師調整 ・各種アンケート作成、とりまとめ ・事前、事後学習プログラム作成 ●松川小学校：事前学習＋体験学習実施（12/9） ●金城中学校：事後学習実施（12/9） ●松島中学校：事前学習＋体験学習実施（12/15）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市との定例会議 ・学校調整 ・講師調整 ・各種アンケート作成、とりまとめ ・事前、事後学習プログラム作成 ●石田中学校：事前学習＋体験学習実施（1/15） ●松川小学校：事後学習実施（1/15） ●古蔵中学校：事前学習実施（1/20） ●真和志中学校：事前学習＋体験学習実施（1/21） ●古蔵中学校：体験学習実施（1/23）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市との定例会議 ・学校調整 ・講師調整 ・各種アンケート作成、とりまとめ ・事前、事後学習プログラム作成 ●真和志中学校：事後学習実施（2/4） ●安岡中学校：事前学習＋体験学習実施（2/6） ●城岳小学校：体験学習実施（2/17）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ヒアリング ・各種アンケートとりまとめ ・報告書作成 ●意見・情報交換会実施（3/3） ・報告書完成 ・事業終了（3/27）

4. 実施総括

(1) 取組の成果

① 専門学校のプロ講師による質の高い職業教育の展開

県内 40 校の専門学校および産業団体、経済団体から、多種多様な専門分野を持つプロ講師を招聘した。実績として、那覇市内 10 校の児童生徒 1,601 名に対し、26 業種にわたる職業体験プログラムを展開した。単なる知識伝達に留まらず、業界の最新情報や現場のリアルを伝える体験プログラムにより、以下の成果が得られた。

・児童生徒：インターネットや教科書では得られない「仕事の裏側や大変さ、やりがい」を、実際に働いているプロの「生きた言葉」で聞くことで、生徒の学びは飛躍的に深まった。特に、タイヤ交換、マジパン工作、アフレコ、医療器具の使用など、「本物の道具や機材」を用いた実体験が児童生徒の知的好奇心を強く刺激した。また、親や教員ではない第三者としての「斜めの関係」の講師と接することで、不登校気味の生徒が楽しく取り組んだり、生徒が将来の不安や希望を素直に吐露できる心理的安全性が確保された。

・学校教員：教員アンケートでは満足度 100%を記録し、「教員ではさせてあげられない実践的な体験を生徒に提供できた」「各専門学校の講師の方の説明などもわかりやすく、生徒の表情が普段見られないものであった」と評価されている。専門家による指導は、生徒が「自分事」として未来を考えるきっかけとなり、学校の学びと社会の繋がりを再認識させる効果があった。

・保護者：授業を参観した保護者からは、「好きだからと言ってできる仕事ではない」というプロの「リアルな声」が子どもに響いたことを肯定する声が上がった。また、「今まで見たことがないくらい講師の話に集中していた」「真剣なまなざしで聞き入っていた」など、プロの指導によって引き出された子どもの主体的な姿勢に驚きと感動を覚えたという感想が報告されている。

このように、専門学校講師という「職業教育のプロ」やリアルな現場に立つ職業人を起用したことは、児童生徒のみならず、彼らを支える大人側（教員・保護者）の職業意識を現代の産業実態に合わせて再構築するという、多大な教育的価値をもたらしたと考える。

※詳細は実施報告書およびアンケート参照

② キャリア発達段階に応じた 30 業種の体験プログラムの提供

小学生の「夢の醸成」から中学生の「進路選択」への移行を支えるため、金融・起業を含む 8 分野 30 業種から児童生徒のニーズに基づき、選択する形式とした。また、1 人でも多くの職業を知ってもらうために、1 人につき 2～3 業種・職種を体験できるように、学校とスケジュールを調整した結果、市内 10 校、1,601 名の児童生徒に対し、実施コマ数 27 コマ、延べ 257 件の職業体験機会を提供した。

・児童生徒：事後アンケートの結果、「社会にはたくさんの職業があることが分かった」と回答した割合は、9 校（城岳小学校除く）平均で 95.8%に達した。職業の認知を広げるだけでなく、勤労観・職業観の醸成においても「仕事のやりがいや魅力がわかった」とする回答は 9 校（城岳小学校除く）平均で 93.1%に上った。特に金城中学校では、96.4%の生徒が仕事の魅力を理解し、97.7%が「働くことは自分の成長につながる」と回答している。低学年の城岳小学校では、仕事の「楽

しき (84%)」だけでなく、「しごとのたいへんなところがわかった (81%)」や「しごとをするのはお金のためだけじゃないことがわかった (53名)」といった声が上がった。単なる憧れを超え、仕事の裏側にある努力や社会的価値を幼い段階から多角的に捉え始めている。

・学校教員・保護者：教員からは「1日で複数分野を体験させる仕組みは、視野を広げる上で非常に有効」との評価を得た。保護者アンケートにおいても、「早い段階で働くことへの興味を持つきっかけになった」との意見が寄せられた。

多様な職業選択肢の提示は、低学年における『働く姿への憧れと社会的意義の理解』を、中学生における『必要な資格や学びを具体的に見据えた進路意識』へと深化させ、発達段階に即した自律的なキャリア形成への強力な動機付けとなった。

※詳細は実施報告書およびアンケート参照

③学校現場の負担軽減と教育活動の自走支援

体験学習を一過性のイベントに終わらせず、学校が主体的に継続できるよう、事前・事後学習用のプレゼンスライド、ワークシート、指導案を整備した。



多忙な教員が専門的な教材準備に追われることなく、質の高いキャリア教育プログラムを自ら実施できる環境を整え、現場での持続的なキャリア教育の



④ 学習効果を補完する職業理解を促す動画の制作

教諭による日常的な職業教育、および児童生徒の事前・事後学習をサポートするために、主要8分野の「職業紹介ショート動画 (約10分)」を自主制作し、学校に提供した。内容については職業体験プログラムと同様に、仕事の内容をはじめ、道のりややりがいなど、勤労観・職業観を醸成するプログラムとした。また、教諭が内容を事前に把握・解説しやすくするための「動画台

本」を併設することで、外部講師との調整にかかる現場の物理的負担を解消するとともに、教育の質の均質化を図った。

- 動画の活用目的と効果： この動画は、体験学習前の動機付けや事後の振り返り、さらに当日欠席した生徒へのフォローアップツールとして活用されることを目的とした。各教科の授業内でも導入しやすいコンパクトな構成としたことで、体験学習時のみならず、日常的なキャリア教育の補完ツールとしての定着を目指した。
- インフラ整備： 制作した動画は、事業専用ホームページに集約し、学校側がいつでも取得できる環境を構築した。

このように、デジタル教材の整備は、外部講師が不在の場面においても、学校が主体的に体験学習の導入や補完を行うことを可能にした。当日欠席した生徒へのサポートや他教科との連携など、現場の状況に応じた柔軟な活用を促すことで、日常の教育活動の中にキャリア教育を多角的に組み込むための有効な支援ツールとなる。



【作成について】

事務局にて各協力企業・専門学校へ依頼し、各業種の動画を独自で撮影。各業種を各分野にまとめ編集を行い計8分野の動画を作成、掲載した。

【オープニング動画】

各分野の画像を見る前の導入動画となります。

【各分野動画】

- ・工業分野／・医療分野／・農業分野／・衛生分野／
 - ・教育社会福祉分野／・服飾家政分野／・商業実務分野／・文化教養分野
- 8分野別に作成。業種としては17業種（職業）の動画を編集

【台本】

各業種の紹介文ともに台本PDFと合わせて表示。学校職員が台本を確認し使用できるように構成した。



・「体験の自分事化」を促すリフレクション（振り返り）：事後アンケートでは、「仕事のやりがいや魅力がわかった」とする回答が9校（城岳小学校除く）平均で93.1%に達している。

体験で得た驚きや違和感を「なぜそう感じたのか」と掘り下げ、本県が提唱する資質・能力「かふやみ」に照らして言語化するプロセスを重視した。この内省支援により、児童・生徒は「社会にはたくさんの職業がある」という認知から一歩踏み込み、「働くことは自分の成長につながる」などという勤労観を自らの中に形成するに至った。

・「今できること」への行動変容と未来の自分への接続：児童・生徒に「今の学習が将来とどうつながるか」を具体的にイメージさせる。実際に、事後アンケートでは「学校で学んでいることが、将来の仕事に役立つと感じた」との回答が松島中学校で83.5%、古蔵中学校で94.0%など高い水準を示している。体験を通じて「なりたい姿」から逆算した「今、何をすべきか」という問いを立てさせ、学習意欲の向上という具体的な行動変容に繋げた成果である。

このように、職業体験プログラムは児童生徒一人ひとりの内面により深く作用するものとなった。個に寄り添い、子どもたちを信じて勇気づけるの姿勢は、子どもたちが自分自身の可能性に気づき、主体

的に未来を切り拓いていくための確かなきっかけづくりに寄与したと考える。

※実施報告書およびアンケート参照

⑥ 持続可能なキャリア教育プラットフォームの基盤構築

那覇市内全 53 校の小中学校において、質の高いキャリア教育を安定的に継続できる「プラットフォーム化」の基盤づくりのため、今年度は以下の施策を実施した。

・**自走支援インフラ整備**：将来的なプラットフォーム構築を視野に入れ、公式ポータルサイトを開設した。同時に、主要 8 分野の職業紹介動画を一元的に提供したことで、学校側は自校のニーズや単元に合わせたプログラムを柔軟に選択・取得できる「自走型モデル」への移行が可能となった。また、



事前・事後学習パッケージ（プレゼンスライド、ワークシート、指導案等）についても、ポータルサイトから直接ダウンロードできるなど、現場の自立した運用を加速させる。


・**プラットフォーム会議の開催**：産学官のステークホルダーが一堂に会し、那覇市が目指す持続可能なキャリア教育の仕組みづくりについて多角的な議論を展開した。会議では、生徒の仕事に対するイメージを「牢屋」から「階段」へと変容させた教育的効果や、不登校傾向の生徒が積極的に参加していた事例が共有され、本事業の極めて高い社会的意義が再確認された。運用面においては、「学校単独での運営はまず無理である」「業務が多忙な中での調整は困難」「コーディネーターが必須である」という切実な声が上がっており、事務局がハブ機能を担うことで教員の物理的・心理的負担を軽減していること、単年度予算や入札による受託者変更には左右されない「スキームの標準化とデータ継承」の必要性、年間計画の確保や単元と組み合わせた横断的なプログラムの提案など、具体的な要望が寄せられるなど、活発的な会議となった。

このように、今年度の取り組みとプラットフォーム会議での対話は、単なる実施報告を超え、那覇市の未来を担う子どもたちを地域全体で育むための「持続可能なキャリア教育の仕組みづくり」を確立させるための重要な一歩となった。

■意見・情報交換会

プログラム	意見・情報交換会
実施日時	令和 8 年 3 月 3 日(火) 15:00～17:00
実施場所	那覇市 IT 創造館
出席者	計 21 名 [Redacted] [Redacted] [Redacted] [Redacted]


	<div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px;"></div>
<p>主な内容</p>	<p>1. 事業説明・報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム構想の趣旨: 現在の事業規模では実施校数に限界があるため、那覇市内全 53 校の小中学校で安定的・継続的に開催できる体制を「プラットフォーム化」し、持続可能な仕組みを構築することを目指している。 ・令和 7 年度実施報告: 市内 10 校、児童生徒 1,601 名に対し、専門学校や産業団体と連携して延べ 93 分野の職業体験機会を提供した実績が共有された。 <p>2. 意見・情報交換会: 現行事業への意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的効果: 実体験により働くイメージが一部改善されるなど、将来のビジョンが明確化した。また、不登校傾向の生徒がイキイキと参加するなど、個々の生徒の変容に資する高い意義が確認された。 ・市主催だと事前事後があるため、個社が実施する時よりも児童生徒への定着が良かった。 ・学校側の課題: 教育課程への組み込みや、前年 2 月には決定する年間計画との調整が難しく、教員の負担が大きい。また、生徒の特性に応じたグループ分けや、事後学習の指導体制も課題として挙げられた。 ・講師側の視点: 小中学生の知的好奇心の高さに驚きがあり、定型的な説明よりも「リアルな体験談」や現場の苦労話がより生徒に響く傾向が確認された。一過性のイベントにせず、小・中・高と連動したステップアップ式のカリキュラムの構築を望む声があった。 <p>3. プラットフォーム (PF) 構想に関する主な議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート機能の重要性: 産業界と学校側では意識や「言語」が異なるため、両者を繋ぐ「通訳 (コーディネーター)」の存在が不可欠である。単なるマッチングにとどまらず、事前・事後学習までパッケージ化された支援が求められている。 ・企業からすると教員と直接連絡を取るのハードルが高い。事務局等があると当日も自分の仕事 (職業体験) に専念できる <div style="background-color: black; width: 100%; height: 20px; margin-top: 10px;"></div> <p>また、クラス・学年単位の申し込み区分や、企業側へのフィードバック (生徒の感想共有) の可視化も必要とされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用上の懸念と要望: 入札による受託者変更があっても設計やデータが継承される「スキームの標準化」が強く求められた。また、特定の時期に申し込みが集中した際に分散させる調整機能や、専門学校だけでなく現場の職業人による「実社会のリアリティ」の導入も重要視された。 ・今後の展望: 実施後の職業選択への影響を分析する追跡調査の軸を持つことや、那覇市での取り組みをモデルケースとして、将来的に沖縄県全域への拡大を

	<p>目指す方向性が示された。</p> <p>4. まとめ</p> <p>那覇市は、限られた財源の中で各団体・企業と連携し、学校側が活用しやすく持続可能な PF 設計を急ぐ方針である。本会で得られた「コーディネーターの配置」「単元連動型プログラム」「操作性の向上」等の意見を、PF の基本設計および次年度以降の実施計画に反映させることが検討される</p>
写真	

(2) 受託事業者から那覇市への提言

徒が自らの体験を言語化し、自己理解を深化させる上で極めて有効な手段であると考えられる。



	<p>全体発表においては、各クラスで主体的に発表者を決めてもらう形式をとった。恥ずかしがってなかなか決まらないクラスもあれば、積極的に挙手をして発表するクラスもあり、反応は様々であった。クラスの枠を超えて多様な意見を共有できる点はオンラインならではの利点であり、授業中はなるべく多くのクラスから発言を引き出せるよう配慮した。</p>
写真資料	
使用した資料 料 (抜粋)	

■職業体験

プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和7年8月22日(金) 2~4校時 09:30~12:20	
実施場所	各クラス、理科室、調理室、美術室前、大階段前など	
ねらい	<p>(1)生徒が自分の進路や希望実現に向けて、職業について関心を深める。</p> <p>(2)将来働く上で必要となる自らの特性を考え、職業の選択について考える価値観と職業観を育成することにより、日頃の学習意欲を図る。</p>	
主な内容	専門学校講師、および産業団体、企業による出前授業(講話+職業体験+振り返り)	
分野・業種	団体名・講師	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	ITカレッジ沖縄	「ペチャリブレ」という対戦ゲームのキャラクター作り
②自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	車両のジャッキアップ及びタイヤローテーションの実演、ラジコン使ったのEV車の特性を体感
③美容・理容	ビューティーモードカレッジ	使用するハサミについて実際の動かし方等の実践
④メイク・ネイル・エステ	琉美インターナショナルビューティカレッジ	パーソナルカラー診断、骨格診断のチャートが書かれたプリントを配布して、自分のパーソナルカラー、骨格診断行った。ネイルケア体

		験(自分の爪ではなく、仕事としてお客様にやることを想定し、隣の生徒の爪をケアする)
⑤調理・製菓・栄養	琉球調理製菓専門学校	チャーハンを作ったり、中華鍋を振ったりと調理体験を行い、講師と生徒の仕上がり・味の違いについて体験
⑥保育・幼稚園・幼児教育	沖縄福祉保育専門学校	ジェスチャーゲーム・猛獣狩り(グループあそび)
⑦医療(リハビリ・柔道整復師)	琉球リハビリテーション学院	人体骨格模型を使用し、実践的に生徒とともに骨の動き・筋肉の動きを確認・実践を行った
⑧医療(救急救命士・臨床工学技士)	沖縄医療工学院	救命救急士が実際に使う、医療機器のモデル(気道管理セット(呼吸ポンプ))等を使用して体験させ、緊急時に必要とされる技術の学習を行った
⑨健康・スポーツ	沖縄医療工学院	スポーツアスリートの訓練など、実践をとおり生徒に体験してもらい、体のしくみと、鍛える内容・目的によって訓練の仕方の違いを体験
⑩ホテル・ブライダル	インターナショナルリゾートカレッジ	ナフキン折り
⑪マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	国際電子ビジネス専門学校	質問Q&Aから業界の理解。実際のアニメの作描の様子を動画で見せ、作家の筆の使い方や完成に向けた画面の変化をスライドや動画で解説
⑫動物	沖縄ペットワールド専門学校	動物に関わるお仕事の様子の多様さや具体的にワンちゃんのしつけ方、爬虫類(ヘビ・トカゲ)の特性や飼い方、健康チェックと触れ合い
⑬芸能・エンタメ・裏方スタッフ	沖縄ラフ&ピース専門学校	「小緑中PR動画」制作体験。グループで動画の題材の選択、誰が話すのかなどの役割分担、タブレットで撮影するなど
⑭医療(看護)	沖縄県看護協会	バイタルサイン測定の実施 ブラックライトを用いての手洗いの実施
⑮起業	那覇青年会議所	身の回りの問題からビジネスを考えるワーク。カップラーメンなど身近な事例をあげ子ども達が起業に興味を持つきっかけとする。
当日の様子・所感	当日は、各教室にて専門家の知見や本物の機材、あるいは生きた動物に直接触れる体験を通じ、生徒たちが終始高い熱量で取り組む姿が見られた。 CG・起業・エンタメ講座ではグループワークが活発に行われ、「小緑中PR動画」の作成においてリーダーシップを発揮する生徒や、独創的なアイデアを出そうと熱心に意見を交わす姿が印象的であった。アニメ・調理・医療分野では、プロの	

	主体的に学習に取り組む態度：自己の体験をふり返りながら、将来に向けて主体的に考え、学ぼうとする姿勢をもつ。他者の意見にも耳を傾け、多様な価値観を受け止めながら学ぶことができる。
主な内容	職業体験の振り返りとその体験から自分の興味関心・強み・価値観は何かを考え、自分の将来を見通す
当日の様子・所感	体験から約1か月が経過していたため、当日の写真や事後アンケート結果を提示し、記憶をたどることから開始した。当初は思い出すことに苦戦する生徒も見受けられたが、すらすらと書き出す姿も確認できた。今回の振り返りを単なるイベントの追憶に終わらせないよう、自身の「興味・関心」「強み・能力」「価値観」の3要素を整理することが、将来を考えるヒントになることを強調した。個人ワークでは「楽しさ・難しさ」や「自分への向性」を深掘りし、その後のグループ共有や全体発表を通じて言語化を試みることで、自己理解と他己理解を促した。生徒からは「自分に合う仕事が見つかった」「興味がなかった職業に関心が持てた」「興味があった仕事への理解が深まった」といった声上がり、単なる「楽しかった」という感想を超え、将来に繋がる気づきが得られたと考える。最後に、周囲の助言を参考にしつつも、最終的には自分の意志で人生を選択する「主体的な進路選択」の重要性を伝えた。本授業を通し、生徒たちが今回の体験を未来の自分をつくる小さな一歩として捉え直すきっかけを提供できたのではないかと考える。
使用した資料 (抜粋)	

松島小学校 実施報告

■ 実施校概要



学校名	那覇市立松島小学校
所在地	〒902-0061 沖縄県那覇市古島2丁目30番地-12
連絡先	TEL：098-917-3325
学校長	奥間 千賀子 校長
担当教諭	
対象者・人数	6学年(3クラス)96名
学校教育目標	○よく考え進んで学ぶ子 ○思いやりがありたくましい子 ○ふるさとを愛し世界に目を向ける子

■事前学習

プログラム	事前学習「人はなぜ働くのか」(動機づけ)	
実施日時	令和7年11月13日(木) 1校時 8:40~9:25	
実施場所	1クラスは対面、他2クラスはオンラインで配信	
講師	[REDACTED]	
ねらい	子ども達のワクワクのスイッチを押し、学習意欲を高める働くことの意味や価値を考え、多様な職業や仕事に興味を持ってもらう	
目指す育成する力	<p>知識・技能：働くことの意味や多くの職業についての基本的な知識を身につける</p> <p>思考・判断・表現：働く理由や自分に合う仕事について考え、自分の言葉で表現する</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：職業や働くことに興味をもち、自分から意欲的に学ぼうとする。</p>	
主な内容	人はなぜ働くのかを考える。世の中の職業について知る。質問を考える。なぜ職業体験するのか知る。職業体験プログラムの抱負を考える。	
当日の様子・所感	<p>学校側の都合により開始時間が急遽変更となり、実質35分程度の授業時間となった。対面で実施したクラスでは児童の反応が非常に良く、積極的な挙手や発言が相次いだ。児童の理解度をその場で把握しながら進行できる対面授業の優位性を改めて実感する場となった。一方、オンライン配信で受講した他クラスにおいても、担任教諭の多大な協力により活発な発表が行われるなど、双方向の関わりを維持することができた。限られた時間内ではあったが、働く意味の考察、職業理解、講師への質問検討、そして体験学習への意気込みといった一連のプログラムを凝縮して実施した。</p> <p>時間の制約上、理解を深めるためのグループワークなどは一部割愛せざるを得なかったものの、体験学習に向けた心構えを整え、期待感を高める機会になったと考える。</p>	
写真資料		
使用した資料	[REDACTED]	

■職業体験


プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和8年11月13日(木) 2~4校時 9:35~12:15	
実施場所	6学年各教室、3号棟、コンピュータ室など	
ねらい	(1)生徒が自分の進路や希望実現に向けて、職業について関心を深める。 (2)将来働く上で必要となる自らの特性を考え、職業の選択について考える価値観と職業観を育成することにより、日頃の学習意欲を図る。	
主な内容	職業体験	
分野・業種	講師・団体名	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	国際電子ビジネス専門学校	「論理的思考を育成」する「プログラム思考パズル」を体験として実施します
②ホテル・ブライダル	沖縄ビューティー&ブライダル専門学校	サービススタッフ体験(ナフキンオリ)
③芸能・エンタメ・裏方スタッフ	沖縄ラフ&ピース専門学校	アニメ映像に合わせてセリフを読む(演じる) アフレコ体験
④保育・幼稚園・幼児教育	琉球リハビリテーション学院	お世話体験:赤ちゃん人形を使ったおむつ替え、お着換え体験抱っこ体験 あそび体験:折り紙で「サンタさん」等を作る
⑤美容・理容	琉美インターナショナルビューティカレッジ	バリカンでウィッグ(マネキン)の髪を刈り上げ、ヘアアレンジなど
当日の様子・所感・アンケート結果	<p>当日の児童たちは、非常に意欲的な姿勢で臨んでいた。保育・幼稚園の講座では6体もの赤ちゃん人形を用いた演習を行い、美容・理容では実際にカットを体験するなど、本格的な道具や実習を重視したことで、児童の集中力は終始途切れなかった。芸能・エンタメの講座では、アフレコ体験を通して「恥じらいを捨てて表現する」というアドバイスを素直に受け入れ、積極的に楽しもうとする姿が見られた。最後の振り返りの時間には、児童から多くの質問が寄せられ、体験から得た刺激を自らの知的好奇心へと繋げる様子が印象的であった。</p> <p>アンケート結果からも、その充実ぶりが伺える。「将来の夢が決まっていなかったが、やりたいことが見つかった」という声に加え、「仕事は人のためにすることだと全員が言っていた」といった、職業の本質を捉えた気づきも多く見られた。また、「お金を稼ぎたい」といった率直な意欲が示される一方で、そのために「今は勉強や宿題を頑張りたい」と、現在の学習と将来を結びつけて考える変化も見られた。講師側からも、児童の真剣な眼差しや、未知の職種に対しても一生懸命に理解しようとする態度を高く評価する声が届いている。全体を通して、社会を支えるプロの熱意に触れ、自分の未来を切り拓くための第一歩を踏み出</p>	

	主体的に学習に取り組む態度：職業や働くことに興味をもち、自分から意欲的に学ぼうとする。	
主な内容	人はなぜ働くのかを考える。世の中の職業について知る。質問を考える。なぜ職業体験するのか知る。職業体験プログラムの抱負を考える。	
当日の様子・所感	オンライン配信ということで、クラスの様子を映し出しながら、状況に合わせて挙手してもらったり、代表者に発表をしてもらうなど、双方通信ができるよう臨機応変に対応するよう心掛けた。ワークシートを用いた「働く目的」の問いに対し、お金以外の視点として「家族を養うため」「親に迷惑をかけたくない」「誰かの支えになりたい」といった、生徒自身の内面的な価値観が反映された声が上がった。また、お金以外にも「やりがい」「成長」のためという意見については、メモをする姿が確認できた。個人で書き出した職業をグループや代表者に画面越しに発表してもらうことで、他者の発見を自分のシートへ追記し合うなど、多角的な職業理解を促した。体験学習時の講師への質問を考える時間には、生徒たちが一生懸命に思索を巡らせる真摯な姿が見られ、自ら問いを生み出す主体的な姿勢を引き出す機会となった。	
写真資料		
プログラム資料		

■職業体験

プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和7年11月14日(金) 2~4校時 09:30~12:25	
実施場所	1年5学級、ピロティ、理科室、視聴覚室、美術室など	
ねらい	子どもたちへの正しい職場理解の促進、職業観・勤労観の育成、働くことへの憧れや意欲の向上、社会への円滑な移行の実現、将来を担う人材育成と輩出を目指す。	
主な内容	県内専門学校の講師による職場体験プログラム	
分野・業種	講師・団体名	体験プログラムのメニュー

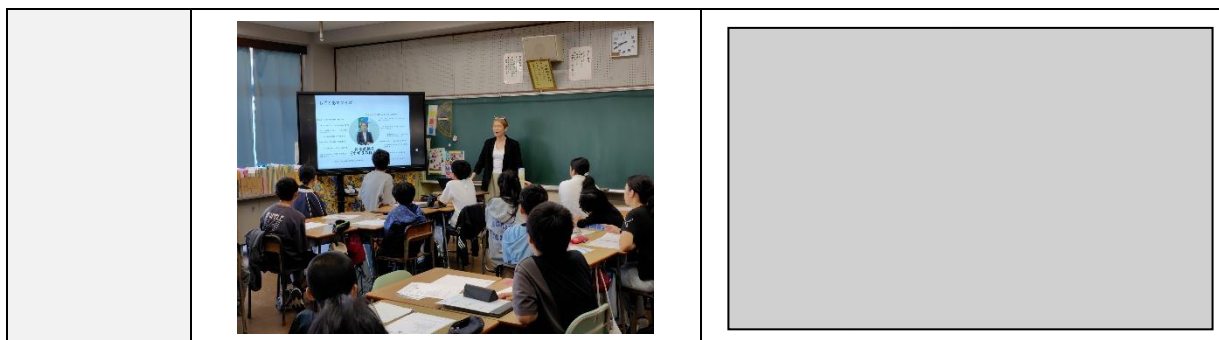
①CG・映像・ゲーム	沖縄ラフ&ピース専門学校	性格・名前・イメージカラーを設定して、オリジナルのゲームキャラクターを、簡単なCG制作ソフトを使って作成します(パーツをカスタムする簡単な操作)
②自動車整備・航空整備	パシフィックテクノロジーカレッジ	①実際に自動車ジャッキアップ及びのタイヤ交換のデモンストレーション②ラジコンを使った操作体験
③美容・理容	ビューティーモードカレッジ	工作ハサミを使った美容師のハサミの扱い方について。・ハサミの持ち方開閉の仕方・ハサミとくしの使い方・新聞紙を使い切る練習
④公務員(警察・消防等)	那覇日経ビジネス・日経ビジネス	・公務員の仕事に関する講義・【体験】指紋採取・【体験】身近なもので担架を作る
⑤マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	インターナショナルデザインアカデミー	参加生徒に統一のモチーフを提示しオリジナルのキャラクターデザインを製作してもらう。
⑥環境・バイオ	サイ・テク・カレッジ美浜	機器による水質のpH測定、電気伝導率測定、溶存酸素量測定。試料は、河川水、海水、水道水、ミネラルウォーターなどを使用
⑦動物	沖縄ペットワールド専門学校	小動物の健康チェックと触れ合い。当日の動物たちの体調によりモルモットと爬虫類(ヘビ)等
⑧芸能・エンタメ・裏方スタッフ	沖縄ラフ&ピース専門学校	アニメ映像に合わせてセリフを読む(演じる)アフレコ体験
⑨コンピュータ・情報・IT	国際電子ビジネス専門学校	「論理的思考を育成」する「プログラム思考パズル」を体験として実施します
⑩金融	那覇青年会議所	投資疑似体験
当日の様子・所感	<p>公務員の教室では、行政の役割(国家公務員・地方公務員)の違いやそれぞれの職種を熱心にメモする姿や、救急救命に関する問いに積極的に回答する様子が見られた。特に担架作成などの実技では、自分たちで試行錯誤しながら解決策を探る意欲が見られた。美容・理容や環境・バイオの講座においても、講師の体験談や身近な地域の水質調査といったリアリティのある内容に生徒は強く惹きつけられ、普段意識することのない社会を支える仕事への興味を深めていた。CG・映像制作のワークでは、教員が「これほど集中しているのを見たことがない」と驚くほどキャラクターデザインに没頭する場面もあり、ものづくりの楽しさを肌で感じる機会となった。</p> <p>生徒アンケートでは、86%が「とても良かった」14%が「良かった」と回答しており、実機操作やタイヤ交換などの貴重な体験に対する満足度が極めて高い。自分の将来について明確な考えを持てたという声や、今はまだ選ばない職業であっても新しい発見があったことを喜ぶ記述が目立ち、職業観の幅が大きく広がったことが伺える。講師側からも、生徒の素直なリアクションや、ワークシートへ書き</p>	

	自分の将来を見通す
当日の様子・ 所感	<p>職業体験で得た「生きた経験」を、自身のキャリア形成へとつなげる振り返り学習を実施した。生徒アンケートで 86%が「とても良かった」と回答した熱量を踏まえ、単なる感想に留まらない体験の深掘りを促した。</p> <p>ワークでは「その職業は自分に向いているか」「なぜそう感じるのか」「将来やりたいことへどのような影響があったか」といった問いを投げかけ、心で感じたことを言語化させた。さらにグループワークで自らの考えをアウトプットし、他者の話を聞くことで、自己理解と他者理解を深める場を設けた。</p> <p>ワークの時間にはクラスを巡回し、生徒一人ひとりと対話を行うことで、個々の興味・関心や大切にしたい価値観と、職業や進路を結びつけるヒントを提示した。授業の締めくくりには、多様な情報を収集した上で「最後に決めるのは自分自身であること」が、主体的な進路選択において不可欠であると伝えた。</p> <p>代表生徒からは「自分の興味から仕事について考えていきたい」という、学びを自分なりに解釈した力強い言葉を聞くことができ、本プログラムの成果を確認することができた。また、担当教諭および担任教諭の多大なる協力により、オンラインによる授業を円滑に遂行することができた。</p>
写真資料	 
使用した資料 など	

松川小学校 実施報告

■ 実施校概要





学校名	那覇市立松川小学校
所在地	〒902-0062 沖縄県那覇市松川1丁目7-1
連絡先	TEL : 098-917-3309
学校長	石原 郁代 校長
担当教諭	■■■■■
対象者・人数	6 学年 (3 クラス) 96 名



■職業体験

プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和7年12月9日(火) 2~4校時 09:35~11:20	
実施場所	各クラス、児童会室、ランチルーム、第1音楽室など	
ねらい	働くことの意味や価値を考え、多様な職業や仕事に興味を持ち、自分の適性や進路について考える機会とする。	
分野・業種	団体名・講師	体験プログラムのメニュー
①CG・映像・ゲーム	沖縄みらいAI&IT専門学校	ipad を使った AR 体験
②保育・幼稚園・幼児教育	沖縄福祉保育専門学校	①沐浴人形を使ったおむつ替えや衣服の着脱 ②乳幼児疑似体験
③健康・スポーツ	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	①テーピングの体験 ②ストレッチの体験
④マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	インターナショナルデザインアカデミー	参加生徒に統一のモチーフを提示しオリジナルのキャラクターデザインを製作してもらう
⑤動物	沖縄ペットワールド専門学校	スライドで犬(動物)とのふれあい方を説明後、実際に犬に触る。他、爬虫類(ヘビ)との触れ合いも行う
⑥芸能・エンタメ・裏方スタッフ	沖縄ラフ&ピース専門学校	アニメ映像に合わせてセリフを読む(演じる) アフレコ体験
当日の様子・所感	<p>職業体験当日の児童たちは非常に活気に溢れ、プロから直接学べる時間を心から楽しんでいたように見えた。事前学習からの流れもあり、講師の話に身を乗り出して反応したり、自分から「それってどういうこと?」と鋭い質問を投げかけたりする姿が随所で見られた。</p> <p>特に印象的だったのは、実際のワークに入った瞬間の表情の変化だ。アフレコへの挑戦、動物との触れ合い、テーピングの実践など、五感をフルに使う体験を通して子どもたちの目がパッと輝き、一気に真剣な表情に変わる場面が見られた。事後アンケートでも98.4%が「仕事のやりがいがあった」と回答しており、単に話を聞くだけでなく、実際に五感を通して「体験」があったことで、子どもたちが仕事の本質的な楽しさや価値をリアルに感じ取れた結果だと言える。参観した保護者からは「早い段階で働くことに興味を持つ良いきっかけになった」との</p>	

	義や働くことの意義を理解する。また、様々な職業で活躍している方の講話や職業観を通して、なりたい職業、憧れの職業について生きた情報を集め、生徒が職業について考える機会とする。	
主な内容	職場体験の一貫として、体験プログラム「ジョブセミナー」を開催 ※ジョブセミナーは学校が名付けたプログラム名	
分野・業種	団体名・講師	体験プログラムのメニュー
①自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	①実際の車両を使ってのジャッキアップ及びタイヤ交換のデモンストレーションと電動工具を使用するのタイヤ脱着体験②ラジコンを使った電気自動車の特性理解と操作体験
②美容・理容	沖縄ビューティ&ブライダル専門学校	ヘアアレンジ
③メイク・ネイル・エステ	ビューティーモードカレッジ	アロマハンドマッサージ：アロマオイルを使用してマッサージの心地よさを体感しセルフトリートメント、相モデルでのトリートメント実践
④公務員（県庁・市役所・役場等）	那覇日経ビジネス・日経ビジネス	税関職員を体験（隠された不正薬物（偽）を探す）・立体パズルを使用した空間把握力向上トレーニング
⑤経理・一般事務・税理士	沖縄大原簿記公務員専門学校	①税理士クイズ(3問・選択式)②ハンバーガーショップをモデルとした帳簿作成及び税金の計算③将来不安なお店は？(企業の健康状態チェック)
⑥保育・幼稚園・幼児教育	沖縄こども専門学校	新聞紙を使用した新聞紙遊び体験（新聞紙じゃんけん、新聞紙破りなど）を行う。保育士の仕事の一部である新聞紙遊びを通して、何を目的にどういった工夫をして子どもたちの発達を促しているのかを体験してもらう。
⑦CG・映像・ゲーム	インターナショナルデザインアカデミー	映像制作の基礎となる「撮影」「音声」「編集」を、実習形式で学びます。専門的な機材やソフトを使用しつつ、「インタビュー動画」を完成させます。内容：インタビュアーとゲスト形式での収録、BGMを追加した編集体験簡単な質問づくりからはじめます。
⑧コンピュータ・情報・IT	サイ・テク・カレッジ美浜	プログラミングロボットを使用して、簡易的なプログラミングを行いグループで、課題解決を目標とします。
⑨健康・スポーツ	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	・テーピングをお互いで巻いてみる(手首)→効果ではなく、モノに触れることが目的

		・足裏のコンディショニング→片足バランス→立ちづらい方の足でテニスボールを踏んでゴロゴロ
⑩医療（リハビリ・柔道整復師）	琉球リハビリテーション学院	リハビリについて。理学療法士のお仕事についてのご紹介。ストレッチなどを通して体の仕組みについて理解をしてもらう。
⑪調理・製菓・栄養	琉球調理製菓専門学校	・製菓の体験実習として講師の先生の指導のもと、生徒ひとりひとりに「マジパン細工」でバラの花を作る体験を実施。
⑫芸能・エンタメ・裏方スタッフ	沖縄ラブ&ピース専門学校	アニメ映像に合わせてセリフを読む（演じる）アフレコ体験
当日の様子・所感	<p>当日は、タイヤ交換やマジパン細工、バイタルチェックといった高度な専門技術に挑む生徒たちの、真剣な眼差しが印象的であった。その姿について、教頭からは「体験に興味津々で取り組む様子に感銘を受けた」との感想が寄せられ、教員からも「実際の業務に触れる本プログラムは、生徒にとって極めて実り多い機会となった」と高く評価された。また、受け入れ先の事業所からも「中学生とは思えないほど学ぶ意欲が高く、積極的に行動していた」と驚きの声が上がっている。生徒たちのアンケートからは、実体験ならではの深い学びが確認できる。「働くことはお金のためだけではないと知った」「インターネットでは得られない内容を学べた」といった声に加え、講師の姿に憧れを抱き、自らの将来を考え始めた生徒も多く見受けられる。中には、ラジコンの価格に驚くといった等身大の発見もあった。</p> <p>今回の体験は、生徒たちが将来を自分事として捉えるための確かな一歩となった。「来年も実施してほしい」「夢に向かって頑張りたい」という前向きな声も多く、生徒たちのキャリア形成にとって有意義な時間であったと考える。</p>	
写真資料		
		



	<p>納得感を求めている表れだと推察される。 [REDACTED] 限られた時間内で全体の学びを止めないよう、「今ここで自分と向き合うことが、将来の自分を助ける武器になる」というメッセージとして、活動の意義を提示するに留めた。</p> <p>美術科の教諭がいらしたクラスでは偶然美術部の生徒が多かったため、講師が自身の経験を交えて「デザインのスキルはデザイナー以外の商品開発などでも活かせる」と紹介した。専門的な強みが多様な職種に繋がる話に生徒が深く聞き入り、担当教諭からも「生徒の視野が広がるきっかけになった」との評価をいただいた。</p> <p>運営面においては、1 コマ 50 分の時間内で深い落とし込みを行う難しさや、集中力を維持しやすい環境づくり（2 コマ実施の検討等）など、次年度に向けた具体的な改善点が明確になった。</p>	
<p>写真資料 使用した資料 (抜粋)</p>		
		

石田中学校 実施報告

■ 実施校概要

学校名	那覇市立石田中学校
所在地	〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川5丁目17-1
連絡先	TEL : 098-917-3404
学校長	宮良 安剛 校長
担当教諭	[REDACTED]
対象者・人数	1 学年（4 クラス）134 名
学校教育目標	自ら学び 感情豊かな 心身共に健康な生徒

■事前学習

プログラム	事前学習「人はなぜ働くのか」(動機づけ)	
実施日時	令和8年1月15日(木) 1校時 8:30~9:20	
実施場所	各クラス	
講師	[Redacted]	
ねらい	子ども達のワクワクのスイッチを押し、学習意欲を高める働くことの意味や価値を考え、多様な職業や仕事に興味を持ってもらう	
目指す育成する力	<p>知識・技能：働くことの意味や多くの職業についての基本的な知識を身につける</p> <p>思考・判断・表現：働く理由や自分に合う仕事について考え、自分の言葉で表現する</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：職業や働くことに関心をもち、自分から意欲的に学ぼうとする。</p>	
主な内容	人はなぜ働くのかを考える。世の中の職業について知る。質問を考える。なぜ職業体験するのか知る。職業体験プログラムの抱負を考える。	
当日の様子・所感	<p>生徒たちは全体として非常に活気が溢れており、[Redacted] 元気よく反応する姿が見られた。プログラムの核である「働くことへの動機づけや意味づけ」について、生徒たちは納得感を持ちながら聞き入っており、仕事が決して遠い存在ではなく、自分たちの生活に密着した身近なものであるという認識を深めていた。</p> <p>学習態度は非常に素直であり、メリハリのある姿勢が印象的であった。講師の話聞く場面、自分自身で考える場面、そして意見を共有する場面と、それぞれのフェーズで集中力を切らさず取り組んでいた。個人ワークから発表までリズムよく展開されたことで、飽きることなく積極的に参加し、これから始まる職業体験へのワクワクとした期待感を隠しきれない様子であった。今回の事前学習を通して、生徒たちは自分なりに「働く意味」を問い直し、自己理解や仕事理解への一歩を踏み出す貴重なきっかけを得ることができた。生徒たちからあふれるエネルギーと前向きな姿勢により、非常にスムーズかつ創発的な学びの場となった。</p>	
写真資料		



■職業体験


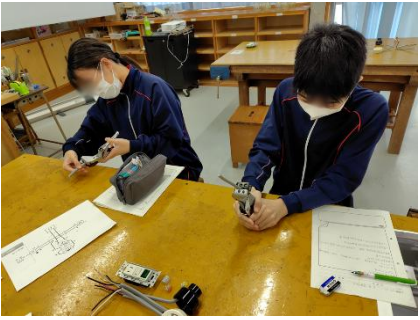
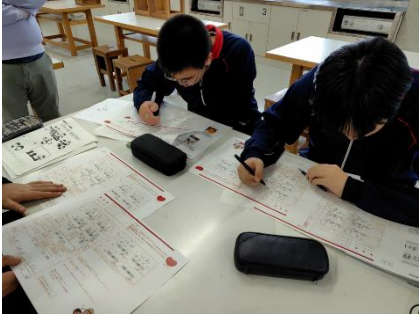

プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和8年1月15日(木) 2~4校時 9:30~12:20	
実施場所	1学年各教室・生徒玄関前・被服室・調理室など	
ねらい	<p>(1) 生徒が「働くこと」の知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くこと の意義を理解する。</p> <p>(2) 様々な職業で活躍している方の講話や職業観を通して、なりたい職業、憧れの職業について情報を集め、職業について考える機会とする。</p>	
主な内容	職業体験プログラム	
分野・業種	講師・団体名	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	沖縄ラフ&ピース専門学校	性格・名前・イメージカラーを設定して、オリジナルのゲームキャラクターを、簡単なCG制作ソフトを使って作成します(パーツをカスタムする簡単な操作)
②自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	①実際の車両を使っでのジャッキアップ及びタイヤ交換のデモンストレーションと電動工具を使用したのタイヤ脱着体験 ②ラジコンを使った電気自動車の特性理解と操作体験
③メイク・ネイル・エステ	沖縄ビューティー&ブライダル専門学校	ネイル体験※キッズネイル(乾いたらすぐにはがせるポリッシュ)を、2人または3人ペアで実習
④調理・製菓・栄養	沖縄調理師専門学校	魚からお寿司になるまでを体感しよう!調理師は素材を商品(料理やお菓子)に作り変えるモノづくりの仕事。調理師としてもっとも大切な味覚を育てるという部分で、できあがったお寿司を試食しながら味覚のお話をして食育を兼ねた体験型授業を行います。
⑤保育・幼稚園・幼児教育	沖縄こども専門学校	新聞紙を使用した新聞紙遊び体験(新聞紙じゃんけん、新聞紙破りなど)を行う。

		保育士の仕事の一部である新聞紙遊びを通して、何を目的にどういった工夫をして子どもたちの発達を促しているのかを体験してもらおう。
⑥医療(リハビリ・柔道整復師)	沖縄医療工学院	包帯を巻いてみよう(時間が余れば三角巾で提肘してみよう)
⑦マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	インターナショナルデザインアカデミー	参加生徒に統一のモチーフを提示しオリジナルのキャラクターデザインを製作してもらおう
当日の様子・所感・アンケート結果	<p>体験学習当日の生徒たちは、プロの技術や仕事の舞台裏に触れることで、終始高い関心を持って取り組んでいた。メイクやネイルの講座では、男性の美容への関心が高まっている現状や、施術を通じて人に喜びを届ける意義について学び、生徒たちは興味津々に耳を傾けていた。</p> <p>リハビリ、保育、調理といった各分野においても、国家資格の重要性や自分の個性を活かす働き方、そして「なぜ今勉強が必要なのか」といった講師のメッセージに対し、深くうなずきながらメモを取る真摯な姿が見られた。実習では、赤ちゃん人形の抱っこやタイヤ交換、魚を捌く体験など、五感を使った学びを存分に楽しむ様子が印象的であった。</p> <p>アンケートからは、「将来の職業のレポーターが増えた」「仕事の華やかな面だけでなく、裏での努力を知ることができた」といった、職業観の深まりを示す声が多く上がった。また、帰り際に「ありがとうございました」「ごちそうさまでした」と自然に感謝を伝える姿は、講師陣からも「感謝の気持ちが育っている」と高く評価されている。</p>	
写真資料		
		

	間見せる瞬間があった。「働かなくても良いのか」といった本質的で率直な問いも飛び出し、キャリア教育という「正解のない問い」に対して、生徒たちが悩みながらも自分なりの答えを探そうとする姿勢が見られた。	
写真・資料等		
		



■職業体験

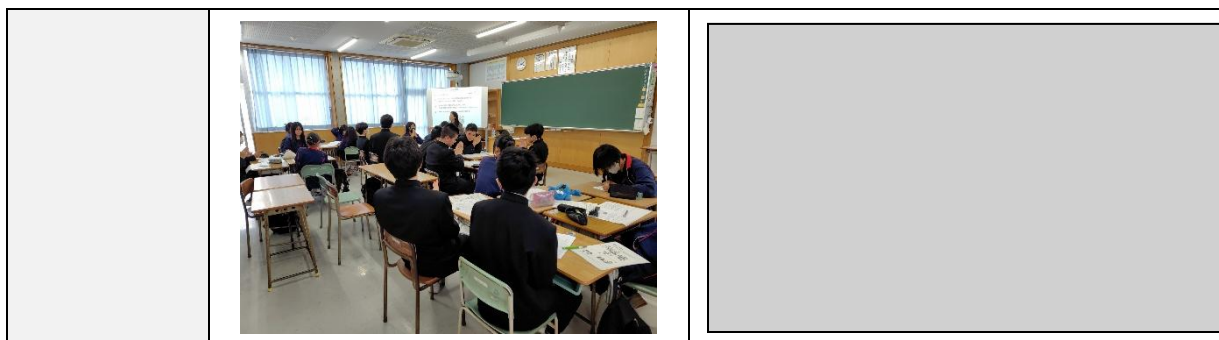
プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和8年1月21日(水) 2~4校時 09:30~12:20	
実施場所	各クラス、家庭科室、技術室など	
ねらい	子どもたちへの正しい職場理解の推進、職業観、勤労観の育成、働くことへの憧れや意欲の向上、社会への円滑な移行の実現、将来を担う人材育成と輩出を目指す。	
主な内容	県内専門学校講師による職場体験プログラム	
分野・業種	団体名・講師	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	沖縄みらい AI & IT 専門学校	ipad を使った AR 体験。
②自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	車両のジャッキアップ及びタイヤローテーションの実演、ラジコン使った EV 車の特性を体感
③メイク・ネイル・エステ	琉美インターナショナルビューティカレッジ	ウィッグ (マネキン) へのヘアアレンジ
④公務員 (県庁・市役所・役場等)	沖縄大原簿記公務員専門学校	・ロープワークを通したブレスレットづくり・婚姻届けの間違い探し
⑤マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	沖縄ラフ&ピース専門学校	コミカライズ：ショートエピソードを題材に、登場人物のデザインと 4 コママンガの制作に挑戦してもらう。
⑥電気・機械	沖縄福祉保育専門学校	・電気工事士の仕事について知る！・電気工事

		士が実際に行っている配線工事を簡単に学んでみる！※第二種電気工事士技能試験の一部を体験する
当日の様子・所感	<p>マンガ・アニメ・ゲームの講座では、作品を通して「笑顔」や「感動」を届けるというエンターテインメントの本質が語られた。講師の問いかけに生徒たちが自ら答えを探し、納得した表情を浮かべる姿が印象的だった。電気・機械の講座では、台風などの過酷な環境下で生活を支える責任感や「ありがとう」という言葉の重みが伝えられ、生徒から「大変ですか？」と率直な質問が出るなど、仕事の光と影の両面に触れる対話が生まれた。また、メイク・ネイル等の美容分野では、国家資格の有無といった具体的な職業の仕組みについて、真剣にメモを取る姿が見られた。</p> <p>生徒アンケートでは、必要なスキルや進路への具体的な道筋がわかったという回答が多く、将来をより現実的に描く一助となったことが伺える。メイク・ネイル・エステでは、モデルウィッグを用いた実習を通して、相手に施術する責任感を肌で感じるといった深い学びもあった。講師側からは、生徒の意欲に個人差は見られたものの、全体として聞く姿勢の良さや学ぶ意欲の高さが評価された。体験を通して、仕事の難しさを理解しつつも、自分の将来の糧とする前向きな変化が随所に現れた一日となった。</p>	
写真資料	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>	

■ 事後学習

プログラム	事後学習「振り返り」
実施日時	令和7年2月4日(金) 5~6校時 13:30~15:20
実施場所	対面
講師	[Redacted]
ねらい	職業体験を通じて得た学びを振り返り、自分の興味・関心、強み・能力、価値観

	を整理することで、自己理解を深め、将来の職業選択や進路選択に生かす力を養う。
目指す育成する力	<p>知識・技能：働くことの意味や職業の多様性について理解する。体験内容をもとに、興味関心・強み・価値観の3要素について整理できる。</p> <p>思考・判断・表現：職業体験で得た気づきから、自分に合う職業を考える。自分の考えを言語化し、グループや全体で共有・表現することができる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：自己の体験をふり返りながら、将来に向けて主体的に考え、学ぼうとする姿勢をもつ。他者の意見にも耳を傾け、多様な価値観を受け止めながら学ぶことができる。</p>
主な内容	職業体験の振り返りとその体験から自分の興味関心・強み・価値観は何かを考え、自分の将来を見通す
当日の様子・所感	<p>今回の事後学習は、2時間という十分な枠を確保して実施した。体験学習での新鮮な記憶を「これからの自分」に繋げるため、一人ひとりが思考を止めずに取り組める環境であった。</p> <p>生徒たちは非常に明るく素直な反応を示し、導入時の問いかけにも積極的に発言するなど、クラス全体に活気ある雰囲気醸成されていた。ワークの最中、何を書けばよいか迷って手が止まったり、集中を維持できずにいた生徒も見受けられたが、担任教諭のきめ細かな声掛けと、XXXXXXXXXX机間巡視により個別にサポートすることが叶った。直接問いかけを行うと、どの生徒も素直に応じ、自らの考えを整理してペンを走らせる柔軟な理解力を発揮していた。中には、自分自身について驚くほど深く分析できている生徒もあり、子どもたちが持つ潜在能力の高さが改めて示された。</p> <p>XXXXXXXXXX担任教諭との強固な連携が、生徒の集中力維持と安心感のある学習環境づくりに大きく寄与したと感じている。今後の課題としては、単なる答えの共有に留まらず、生徒同士で「なぜそう思ったのか」を問い合い、意見を交わすプロセスを強化することで、より主体的な気づきを引き出す余地がある。全体を通して、生徒が自分自身の興味や将来についてじっくりと向き合い、自らの手で未来の選択肢を広げようとする前向きな姿が印象的な時間となったと考える。</p>
写真・資料等	 





古蔵中学校 実施報告

■ 実施校概要

学校名	那覇市立古蔵中学校
所在地	〒900-0024 沖縄県那覇市古波蔵4丁目8番1号
連絡先	TEL : 098-917-3409
学校長	太田 寛 校長
担当教諭	■■■■■
対象者・人数	1学年（6クラス）191名
学校教育目標	○礼儀正しく心豊かな生徒 ○自ら進んで学ぶ生徒 ○心身ともに健康で主体的に行動する生徒

■ 事前学習

プログラム	事前学習「人はなぜ働くのか」（動機づけ）
実施日時	令和8年1月20日（火） 5校時 13:30～14:20
実施場所	■■■■■
講師	■■■■■
ねらい	子ども達のワクワクのスイッチを押し、学習意欲を高める働くことの意味や価値を考え、多様な職業や仕事に興味を持ってもらう
目指す育成する力	知識・技能：働くことの意味や多くの職業についての基本的な知識を身につける 思考・判断・表現：働く理由や自分に合う仕事について考え、自分の言葉で表現する 主体的に学習に取り組む態度：職業や働くことに関心をもち、自分から意欲的に学ぼうとする。
主な内容	人はなぜ働くのかを考える。世の中の職業について知る。質問を考える。なぜ職業体験するのか知る。職業体験プログラムの抱負を考える。
当日の様子・所感	1クラスでの授業を残り5クラスへ同時配信する形式で実施された。PCカメラを通じて講師の表情や身振りを常時投影し、音響面もクリアに確保したことで、配信先の教室においても一定の臨場感が共有されていた。 問いかけに対して大きな声で応じ、発表時には即座に手が挙がるなど、全体的に前向きに課題に取り組み、生徒の反応の良さが伺えた。自発的な拍手や応援が自

	<p>然に沸き起こるなど、互いの発言を認め合う雰囲気活発であった。ワークシートの記入も積極的であり、短時間で「臨床心理士」や「ボディガード」など25個もの職業を書き出す多角的な視点を持つ生徒も見られた。「年収」や「必要な資格」といった、将来を生活のリアリティとして捉えようとする具体的かつ鋭い質問が相次いだ点は、生徒の高い関心の表れと言える。</p> <p>担任や支援員が机間巡視を行い、個々の生徒へ丁寧に声掛けを行ったことが、ワークの質を深める一助となった。一方で、生徒の思考や対話が熱を帯びた分、最終ワークが時間切れとなった点は次年度への調整事項である。</p>	
写真資料		
使用した資料		

■職業体験

プログラム	職業体験プログラム	
実施日時	令和8年1月23日(金) 5~6校時 13:30~15:20	
実施場所	1学年各教室、音楽室、ピロティ、理科室A、Bなど	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野で働く人の話を聴くことで、身近な人々の生き方を学ぶ。 ・将来働く上で必要となる自らの特性を考えるとともに、職業について関心を高める機会とする。 	
主な内容	県内専門学校の講師による職業体験プログラム	
分野・業種	講師・団体名	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	沖縄みらいAI&IT専門学校	ipad を使った AR 体験
②自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	<p>①実際の車両を使っのジャッキアップ及びタイヤ交換のデモンストレーションと電動工具を使用してのタイヤ脱着体験</p> <p>②ラジコンを使った電気自動車の特性理</p>



		解と操作体験
③メイク・ネイル・エステ	ビューティーモードカレッジ	①身だしなみのひとつ「アイブロウ」の基本バランス②爪磨き
④福祉・介護	沖縄福祉保育専門学校	①カガミ文字体験②ソーシャルワーカー体験③脳トレ体験（時間が余ったら実施）
⑤健康・スポーツ	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	テーピング
⑥旅行・ツアーコンダクター	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	観光ガイドブック制作体験
⑦ホテル・ブライダル	インターナショナルリゾートカレッジ	フォトプロップスづくり体験
⑧マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	インターナショナルデザインアカデミー	参加生徒に統一のモチーフを提示しオリジナルのキャラクターデザインを製作してもらう。
⑨美容・理容	沖縄ビューティー&ブライダル専門学校	ヘアアレンジ
⑩看護	沖縄県看護協会	・バイタルサイン測定 ・手洗いチェックなど
当日の様子・所感・アンケート結果	<p>看護の脈拍測定や手洗い実習、アニメ制作のデジタル作画実演など、講師がプロの技を直接披露するプログラムに対し、生徒たちは食い入るように見つめ、その手順や細かな動きにまで強い関心を寄せていた。特にメイク・エステや福祉の講座では、技術面のみならず「相手に喜んでもらうことが自分の喜びになる」「支援したい人の願いを叶える」といった仕事の本質を説く講師の言葉に対し、真剣にメモを取る姿が印象的だった。旅行プラン作成で見られた、沖縄の地図をじっくり眺めながら自分なりのプランを練る様子からは、与えられた課題を自らの問いとして深める主体性が伺える。</p> <p>生徒アンケートでは、実機やタブレットを用いた体験が「将来就きたい職業の具体的な理解」に繋がったという声が目立った。将来の進路への意欲を示す回答が77件にのぼり、「今の学びが将来に役立つとわかった」「パート2をやってほしい」といった前向きな変化が見られた。講師側からも、生徒の素直なリアクションや探究心を評価する声上がり、中学校という多感な時期に職業観を育む手伝いできたという確かな手応えが示された。全体を通して、体験を通じて仕事の楽しさややりがい自分事として捉え直す貴重な機会となったと言える。</p>	

主な内容	人はなぜ働くのかを考える。世の中の職業について知る。質問を考える。なぜ職業体験するのか知る。職業体験プログラムの抱負を考える。	
当日の様子・所感	今回の事前学習では、全体として落ち着いた雰囲気の中、生徒たちが真面目に話を聞く姿勢が非常に印象的であった。当初は大人しく受け身な傾向も見られたが、講師陣が「働くことはどう生きるかの準備体操である」と定義し、自分事として捉えるよう促したことで、次第に活発な反応が引き出された。「なぜ働くか」という問いに対し、金銭のためだけでなく社会貢献や生きがいを見出すなど、深い洞察を共有し合う姿には大きな成長の可能性が感じられた。ワークでは職業名が分からなくても「役割」で書き出す工夫をしたことで記述のハードルが下がり、20個以上の職業を挙げるなど、未知の領域へ興味を広げる様子が見て取れた。一方で、自発的な挙手や発表にはまだ伸びしろがあり、限られた時間の中で一人ひとりの内面をさらに掘り起こすための個別の声掛けや、発表時間の確保が今後の課題として挙げられる。しかし、最後には職業体験を通じて自らの中にある違和感に向き合いたいと語る生徒も現れ、本質的なメッセージが届いているという確かな手応えを得ることができた。	
写真資料		
		

■職業体験

プログラム	職業体験プログラム
実施日時	令和8年2月6日(金) 2~4校時 9:30~12:30
実施場所	1年教室・図書室・音楽室・理科室・会議室・武道場など
ねらい	(1)様々な分野で働く人の話を聴くことで、身近な人々の生き方を学ぶ。 (2)将来働く上で必要となる自らの特性を考えるとともに、職業について関心を高める機会とする。
主な内容	校内において、生徒の希望に応じて講話内容を選ぶ。沖縄県専修学校各種学校協会から派遣される講師による講話を聴いたり体験を行う。各教室にて実施。働く

ことの喜びや苦勞、意義などを学ぶ。		
分野・業種	講師・団体名	体験メニュー
①CG・映像・ゲーム	国際電子ビジネス専門学校	プログラマに必要な「論理的思考を育成」する「プログラム思考パズル」を体験
②建築	サイ・テク・カレッジ美浜／ サイ・テク・カレッジ那覇	幾何学的な平面図形（四角、三角、円など）を組み合わせて立体的な造形物の制作
③自動車整備・航空整備	パシフィックテクノカレッジ	①実際の車両を使つてのジャッキアップ及びタイヤ交換のデモンストレーションと 電動工具を使用するのタイヤ脱着体験②ラジコンを使った電気自動車の特性理解と操作体験
④美容・理容	大育理容美容専門学校	国家試験課題（ワインディング）→髪の毛にパーマをあてるときの基本的な技術でロッドという器具などを使用して髪の毛を波状に縮れさせるスタイル
⑤メイク・ネイル・エステ	沖縄ビューティー&ブライダル専門学校	キッズネイル体験 2人1組で、お互いに施術を実施
⑥保育・幼稚園・幼児教育	沖縄中央学園	保育士が子どもたちに「生きる力」を伝える【あそび】の技術を体験しよう！一緒に園児やせんせいになった気分を楽しもう♪
⑦健康・スポーツ	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	ペアストレッチ、リズムトレーニング
⑧旅行・ツアーコンダクター	沖縄リゾート&スポーツ専門学校	沖縄の世界遺産ツアーマップ作成
⑨エアライン・空港地上スタッフ	インターナショナルリゾートカレッジ	日本語と英語の2パターンで、本物のアナウンスを体験
⑩マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	沖縄ラフ&ピース専門学校	コミカライズ：ショートエピソードを題材に、登場人物のデザインと4コママンガの制作に挑戦してもらおう
⑪動物	沖縄ペットワールド専門学校	小動物の健康チェックと触れ合い。当日の動物たちの体調により、動物たちを持参（モルモット、爬虫類等）
⑫コンピュータ・情報・IT	那覇日経ビジネス	プログラミング学習ツール「Scratch」を使用し、「キャッチゲーム」の制作に取り組む。実施内容：基本操作の確認、ゲームの基本構造づくり、変数・条件分岐の体験、発展・工夫等

⑬ホテル・ブライダル	沖縄ビューティー&ブライダル専門学校	ナフキン折り・ブライダルプランナー体験
⑭公務員(警察・消防 等)	那覇日経ビジネス・日経ビジネス	・公務員の仕事に関する講義 ・指紋採取、身近なもので担架を作る
⑮電気・機械	パシフィックテクノカレッジ	電気工事士が実際に行っている配線工事を簡単に学んでみる！※第二種電気工事士技能試験の一部を体験
当日の様子・所感・アンケート結果	<p>エアラインの講座では、救命胴衣や機内用酸素マスクなどの実物に触れることで、華やかなイメージの裏側にある「安全を守る責任」という本質を真剣な表情で受け止めていた。スカーフ巻きやネイル、パズル、機内アナウンス、ストレッチ、指紋採取の体験といった多彩なプログラムを通し、最初は緊張していた生徒が次第に自信を持って表現していく姿が印象的であった。また、自動車整備のブースでは、普段目にすることのない専門的な工具に興味深く触れ、実際の車両を用いた整備体験に一生懸命取り組むなど、楽しみながら「働くこと」を学ぶ様子が見られた。</p> <p>当日は授業参観ということもあり、見守っていた保護者からは生徒の集中力の高さに驚きの声が多く寄せられた。「今まで見たことがないほど講師の話に集中していた」「教科書にはない大人の生の声に対し、いつも以上に真剣な眼差しで聞き入っていた」といった評価に加え、わが子が専門家のアドバイスを素直に吸収し、自分の適性や今の学習が将来どう役立つのかを主体的に考えようとする変化が好意的に受け止められている。</p> <p>生徒アンケートの結果からも、具体的な意識の変化が読み取れる。将来働く目的を「生活のためのお金」と現実的に捉えつつも、体験を経て「仕事は嫌なことだけではない」「お金以外にやりがいや達成感がある」という新たな気づきを得た生徒が多かった。「一つの夢だけでなく、もっと他の仕事も調べたくなった」という記述からは、未知の分野への挑戦意欲や学習への動機づけが高まった様子が伺える。</p>	
写真資料	 	



城岳小学校 実施報告

■ 実施校概要

学校名	那覇市立城岳小学校
所在地	〒900-0023 沖縄県那覇市楚辺2丁目1番1号
連絡先	TEL : 098-917-3318
学校長	永田 聖子 校長
担当教諭	■■■■■
対象者・人数	2学年（3クラス）88名
学校教育目標	よく考え進んで学ぶ子（知） 心豊かで思いやりのある子（徳） 心身ともに元気な子（情体）

■ 職業体験

プログラム	職業体験プログラム
実施日時	令和8年2月17日(火) 5~6校時 13:40~15:20
実施場所	体育館、第2理科室など
ねらい	・児童が働くことの意義や目的を理解し、働く意欲や態度を育む

・自分の個性や適性を把握し、新たな可能性を発見する場とする。		
分野・業種	講師・団体名	体験メニュー
①コンピュータ・情報・IT	那覇日経ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の IT 活用例 (チャイム・電子黒板・図書システム等) を 3 つ以上言える。 ・IT は「見つける／あつめる／うごかす (知らせる)」の 3 ステップで考えられることを説明できる。 ・グループでカードを用いて、困りごとの解決フローを 1 つ以上作り、発表できる。
②美容・理容	大育理容美容専門学校	理容師・美容師の共通した施術でもあるパーマメントウェーブをウィッグとロッドを使って毛髪を巻くワインディング体験。ワインディングは来年度の国家試験の課題にも選ばれた施術。
③メイク・ネイル・エステ	琉美インターナショナルビューティカレッジ	ネイルケア体験 爪やすりでお友達の爪を整える (2 人 1 組になって相モデル)
④調理・製菓・栄養	沖縄調理師専門学校	海で泳いでいた魚が、おすしという商品になるまでの物語 (デモンストレーション中心で実演を見て学ぶ内容、できあがったおすしの試食あり)
⑤マンガ・アニメ・ゲームキャラクター	沖縄ラフ&ピース専門学校	コミカライズ: ショートエピソードを題材に、登場人物のデザインと 4 コママンガの制作に挑戦してもらいます。
⑥動物	沖縄ペットワールド専門学校	動物との関わり方、触れ合い方を説明し、その後実際に動物に触れる。小動物: モルモット、爬虫類等
当日の様子・所感	<p>体育館内に 5 つ、隣接する校舎 1 階に 1 つの計 6 ブースを設けて実施した。児童数が 3 クラス 88 名と少数であったこともあり、各ブースとも余裕を持って講話や体験を行うことができた。小学 2 年生という発達段階を考慮し、当初は賑やかな雰囲気になることを予想していたが、学校側の事前指導もあり、児童たちは落ち着いて静かに講師の話聞き、体験にも真剣に取り組んでいた。それぞれが楽しみながら、友人同士で言葉を交わしつつ活動する姿が印象的であった。また、6 つの分野から 2 つを選択する形式であったため、他ブースの内容を気にする児童や、未体験の分野について友人から話を聞く場面も見られた。</p> <p>参観した約 20 名の保護者からも、「今までに見たことがないほど集中して話を聞いていた」「働く大人の生の声に真剣なまなざしを向けていた」といった感想が多く寄せられた。本物の道具や機材に触れる体験が、児童の知的好奇心を大きく刺激したことが伺える。専門的な適性に関する話に対しても、「今からでも改善できる」という講師の言葉を前向きに捉えるなど、自身の将来を自分事として見つめる様子が見られた。</p> <p>全体を通して、児童たちが楽しみながらも実社会で働くことの意義を肌で感じる貴重な機会となった。早い段階で直接仕事に触れた今回の経験が、夢や希望、将</p>	

来について考える一助になったのではないかと考える。

写真資料



第4章 アンケート調査の結果と分析

1. 児童生徒への調査結果

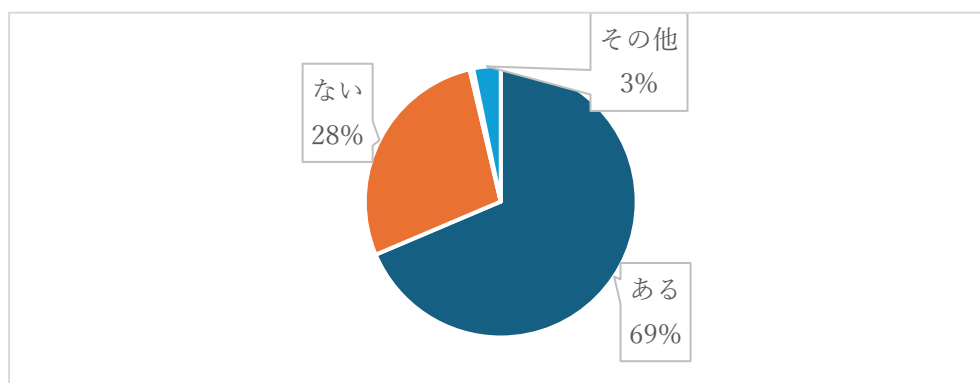
■児童・生徒向け 事前アンケート 取組準拠型考察／有効回答者数：1,166名

①あなたには、将来の夢や興味のある仕事はありますか？（図1）

事前アンケートの有効回答数1,166名のうち、将来の夢や興味のある仕事が「ある」と回答した児童生徒が69%である一方で、「ない」との回答も28%に達している。夢や興味を持つ理由としては、「好き・楽しい」といった個人の嗜好や身近な働く大人への憧れ、経済的自立や社会貢献への意欲など、多角的な動機が挙げられている。これに対し、目標が「ない」と答えた約3割の層の自由記述を分析すると、「どんな仕事があるかわからない」「社会のことを知らない」といった職業情報の不足や、「自分に何が向いているかわからない」という自己理解の未達が主な要因として浮かび上がっている。また、特に中学生において「まだ先のことなので考えなくていい」「あまり将来に関心がない」といった、将来を自分事として捉えきれておらず、進路への意識が未分化な状態にある実態も確認できる。

これらの結果は、児童生徒が自身の経験や周囲の限定的な情報環境に依存している現状を反映している。目標が定まらない層は「働かなければならないことは理解しているが、何を目標せばよいか分からない」という葛藤の中にいると推察される。

（図1）



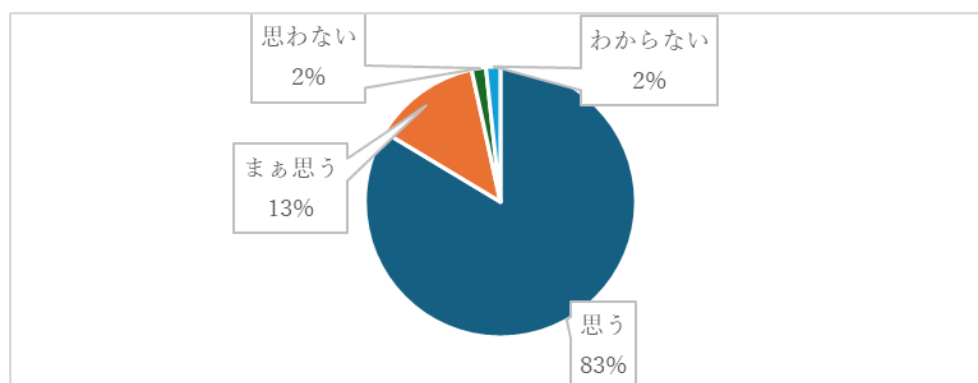
②あなたは、将来仕事をしたいと思いますか？（図2）

将来仕事をしたいと「思う（83%）」および「まあ思う（13%）」を合わせた肯定的な回答は96%に達しており、大多数の児童生徒が将来働くことに対して非常に高い意欲を持っていることが示されている。その理由について各校の自由記述を分析すると、最も多く挙げられた動機は「お金を稼ぐ・生活のため」という極めて現実的な生活基盤の維持であった。「働かないと生きていけない」「自立した生活を送り、いい暮らしをしたい」といった声が小学生から中学生まで共通して見られ、経済的自立を働くことの第一義的な目的として捉えている様子がうかがえる。これに並行して、他者や社会との関わりに意義を見出す「自立・家族・社会貢献のため」という回答も目立ち、「今まで育ててくれた親に恩返しをしたい」「誰かを笑顔にしたり、社会の役に立ちたい」といった感謝や貢献の念も強い動機となっている。また、「自分の夢を叶えたい」「好きなことや趣味（推し活等）にお金を使いたい」といった自己実現や個人的な幸福の追求を挙げる生徒も多く、多様

な価値観が就業意欲の根底にあることが確認できる。

児童生徒は働くことを「社会の中で自立し、自分の可能性を広げ、かつ生活を支えるための不可欠な営み」として前向きに受容していると言える。一方で、少数ながら「めんどくさい」「仕事は大変そう」といった負担感を感じている層も存在しており、こうした生徒たちに対し、職業体験を通じて「働くことのやりがいや楽しさ」を具体的にイメージさせる機会を提供することには、大きな教育的価値があると考えられる。

(図 2)

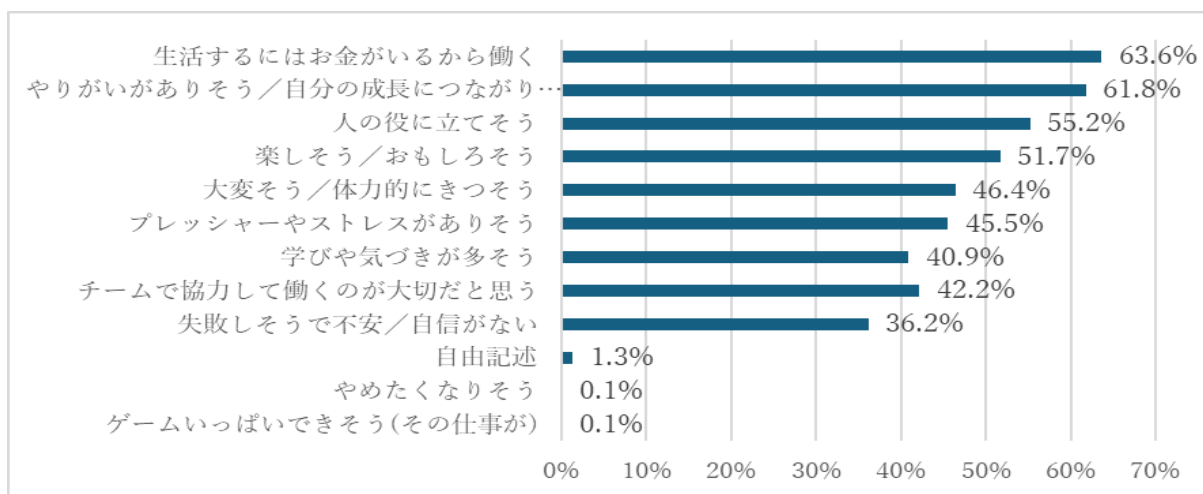


③仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか？ (図 3)

「経済的必要性」を現実的に捉えつつ、「自己成長・社会貢献への期待」と「心身の負担や失敗への不安」という相反する感情が入り混じっている。具体的には、最も高い割合を示したのが「生活するにはお金がいるから働く (63.6%)」であり、子どもたちが働くことを「生活を維持するための不可欠な手段」として冷静に認識していることがわかる。これと並行して、「やりがいがありそう／自分の成長につながりそう (61.8%)」や「人の役に立てそう (55.2%)」といった肯定的なイメージも過半数を超えており、社会の一員としての成長や他者貢献に価値を見出そうとする高い意欲が示されている。

しかし、同時に「大変そう／体力的にきつそう (46.4%)」や「プレッシャーやストレスがありそう (45.5%)」といった負担感、さらには「失敗しそうで不安／自信がない (36.2%)」といった自己の能力に対する不安も 3 割から 4 割を占めている。これらの数値は、児童生徒が「働くことの重要性」は理解しながらも、具体的な仕事の内容や自身の適性が不透明であるために、心理的なハードルを高く感じている現状を反映している。

(図 3)



④普段、働くことや仕事の話、どんなところから見たり聞いたり話したりしますか？ (図4)

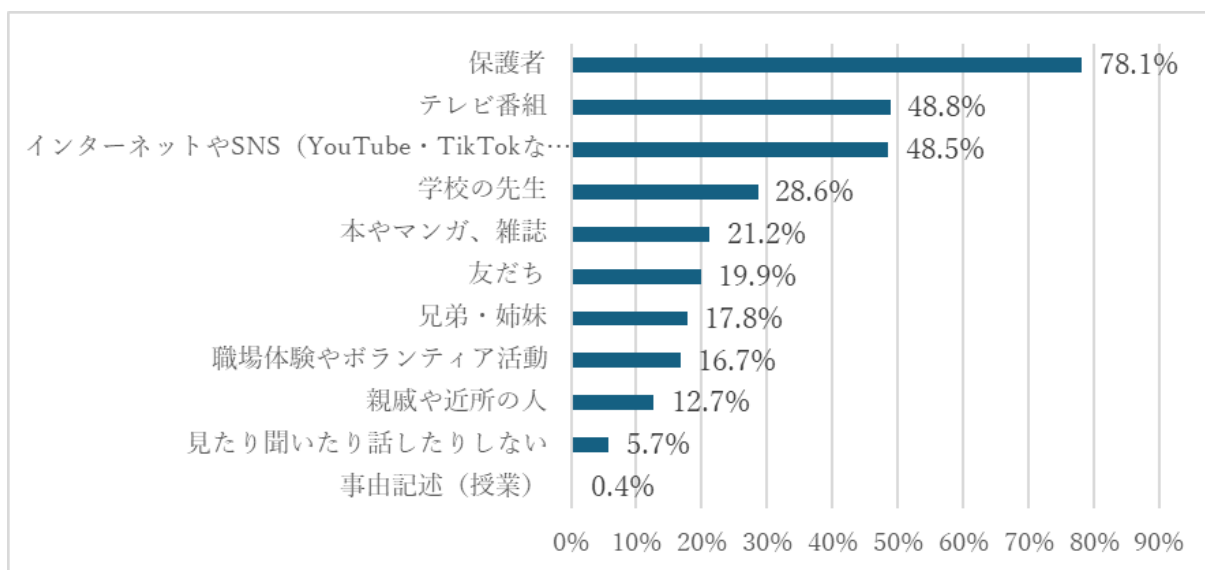
情報の入手先として「保護者」が78.1%と他を圧倒しており、子どもたちの仕事に対する認識は、最も身近な大人の姿に強く規定されている。具体的な話の内容を見ると、単なる仕事内容や給料だけでなく、「仕事の不満や愚痴」「親が毎日『疲れたー』と言いながら頑張っている姿」といった生活感の伴うリアルな実態、さらには「仕事と家事の両立」といった労働の裏側にある日常を日常的に見聞きしている。こうした情報は、働くことの現実を知る一助となる一方で、情報の入り口が家庭に依存しているため、職業選択の視野が親の職種や価値観の範囲内に限定されやすいという実態も示唆している。

次に、約半数の生徒が情報源としている「テレビ番組(48.8%)」や「インターネット・SNS(YouTube・TikTokなど)(48.5%)」からは、YouTubeの仕事ルーティン動画やTikTokの「稼げる仕事」といった視覚的で興味を引きやすい情報を得ている。しかし、同時に「ブラック企業とホワイト企業の違い」や不景気のニュースなど、社会の厳しさを断片的に捉えている側面もあり、仕事の本質よりも表面的なイメージや極端な事例が先行して伝わっている様子がうかがえる。

一方で、「学校の先生」を情報源とする生徒は28.6%に留まっており、教育現場よりも家庭やデジタルメディアが情報の主軸となっている。自由記述からは、「今勉強しておくべきこと」や「必要な資格・進路」といった将来への具体的なステップを相談する声も上がっているが、それらが日常的に体系的な職業理解にまで結びついているケースは多くない。

児童生徒は職業体験プログラムを受ける前の段階で、「親の背中」を通じた労働の苦労という極めて身近な現実と、「デジタルメディア」による断片的な憧れや不安という、限定的な情報環境に置かれていると言える。この結果は、本事業のように専門家や多様な業種の職業人から直接「仕事の本質」や「社会的な意義」を聞く機会が、児童生徒の日常的な断片情報を整理・体系化し、職業的視野を広げる上で、極めて重要な役割を果たしていることを強く裏付けている。

(図4)



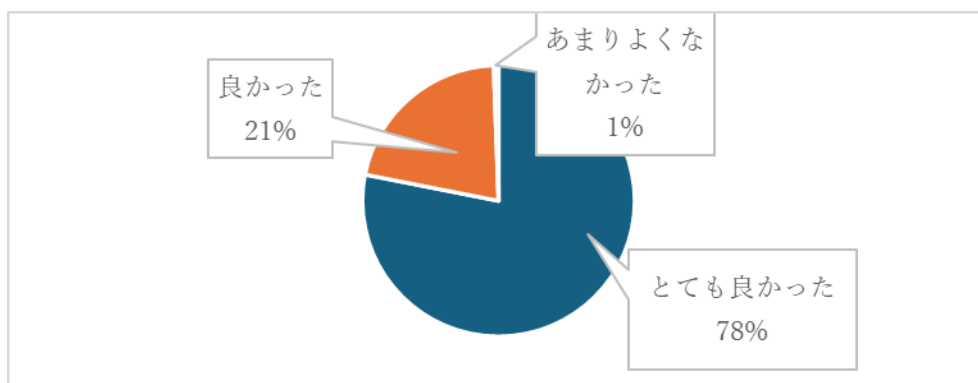
■児童・生徒向け 事後アンケート 取組準拠型考察／有効回答者数：1,060名

①今回の職業体験プログラムに参加して良かったですか (図1)

全体回答者 1,060 名のうち、99%の児童生徒が「とても良かった」または「良かった」と回答しており、高い満足度を示している。その理由として、児童生徒からは「名前だけ知っていた仕事の中身を理解できた」や「全然興味がなかったことにも興味を持つことができた」という声が上がっており、職業に対する理解が深まったことが事実として確認できる。また、「働くことはお金のためだけじゃないと知ることができた」という感想も見られ、インターネット等の情報だけでは得られない仕事の本質を実感する機会となったことがうかがえる。本物の道具や機材を用いた本格的な実体験は、児童生徒の知的好奇心を強く刺激した。具体的には、「実際に車のタイヤを付け替えたりする体験ができて楽しかった」や「アフレコで友だちと楽しくできた」といった喜びの声が寄せられており、職業人の技術に直接触れる経験が満足度に直結している。さらに、専門家から直接教わることで「今から何をすればいいか、それに就くにはどうしたらいいかを知ることができてためになった」と感じる生徒も多く、将来の夢を具体化し、進路に対して主体的に取り組もうとする意欲向上が事実として見て取れる。

職業人講師の働く姿に直接触れたことで、日常的に働く身近な大人への認識が肯定的に変化したことも大きな成果である。児童生徒からは「親が自分のためにずっと仕事をしていたということに気づけた」という感謝の言葉や、「どの人も笑顔で仕事の内容を話していたので、自分も楽しく仕事ができるようになりたい」といった将来への前向きな決意が事実として語られている。このように、専門学校講師等による「生きた言葉」と「本物の体験」は、児童生徒に働くことの喜びや大変さを多角的に捉えさせ、自らの可能性を拓こうとする姿勢を醸成する強力な動機付けとなった。

(図1)

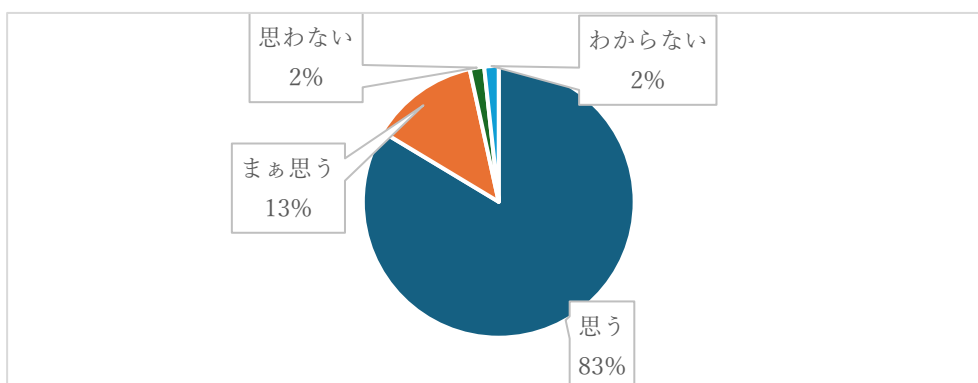


②あなたは、将来仕事をしたいと思いますか（図2，図3）

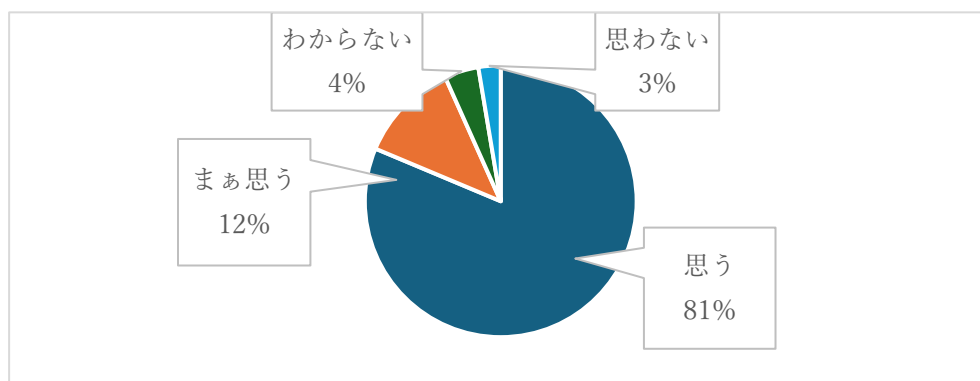
職業体験プログラム実施前の事前アンケートでは96%、実施後の回答が93%と肯定的な意欲を維持しており、数値上のわずかな微減は、職業人の講師によるリアルな体験談を通じて仕事の厳しさや責任といった現実と直面し、児童生徒が自らの将来をより真剣かつ慎重に捉え直した結果であると推察される。この高い意欲を支える具体的な理由を各校の記述から紐解くと、まず「稼いで楽な暮らしをしたい」や「将来仕事をしないと、衣食住ができない」といった、生活を支えるための不可欠な営みとして働くことを冷静に捉える現実的な視点が共通して見られる。その一方で、本事業での体験は「自分の楽しいことを生かした職業につくことでやりがいも感じ、お金も稼ぎたい」という自己実現への関心や、「講師の方々がとても楽しそうに紹介していたので、自分の好きなことができるのはいいなと思った」といった、仕事そのものの楽しさや魅力に気づく強力な契機となったことが事実として示されている。さらに、働くことの社会的意義を自分事として捉え直す内省的な深まりも見られ、「親に恩返ししたい」という感謝の念に加え、「お金を稼ぐだけでなく、誰かのために社会のために動いていると理解した」、あるいは「親が自分のためにずっと仕事をしていたことに気づいた」といった、働く大人への敬意や他者貢献への意識が芽生えている。

こうした意識変容の結果、「仕事は嫌なことだけじゃないと分かった」や「働くことはお金のためだけじゃない」といった言葉が事実として語られており、事前学習で働くことを「牢屋」のように捉えていた生徒が、体験を経て「希望へのステップ（階段）」へとイメージを好転させたという報告を裏付ける形となっている。総じて、児童生徒が抱いていた「漠然とした就業への義務感」は、本物の体験と職業人の言葉に触れることで、自らの可能性を広げ社会に貢献しようとする「主体的な未来への展望」へと昇華されたと言える。

（図2）事前アンケート



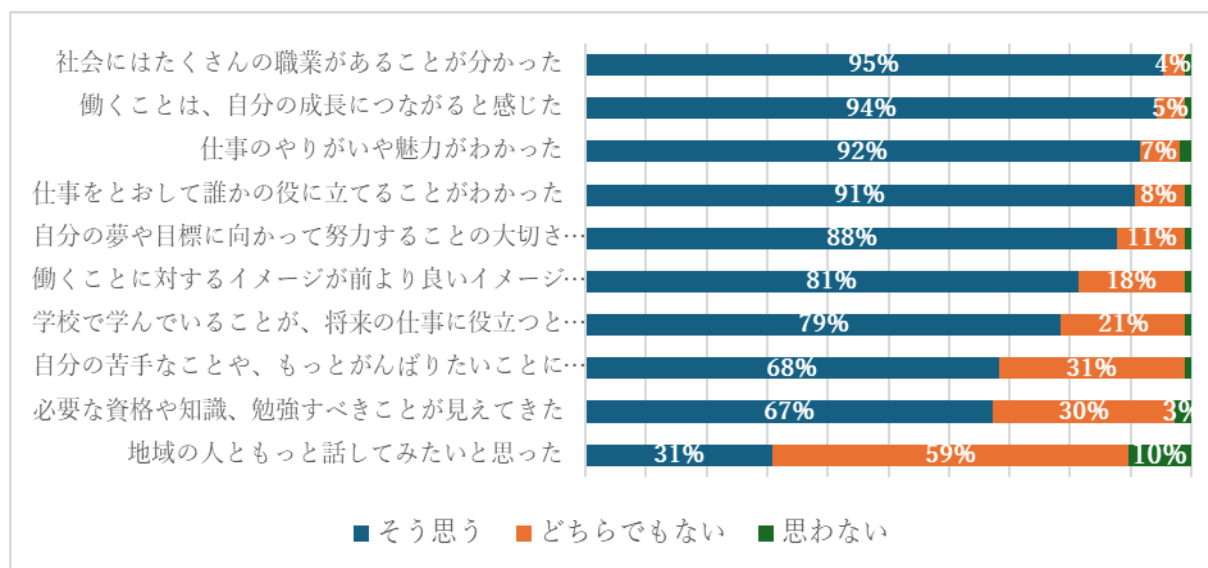
(図3) 事後アンケート



③今回の職業体験を行って、下記の質問事項についてそれぞれどのように思いますか (図4)

多くの項目において「そう思う」とする肯定的回答が極めて高い割合を示しており、本事業が児童生徒の内面的な成長や学習意欲の向上に大きく寄与したことが明らかになった。特に、「学校で学んでいることが、将来の仕事に役立つと感じた」とする回答が全体で79.0%（古蔵中学校では94%）に達したことは特筆すべき成果であり、専門学校等の講師が講話の中で必要な力や資格を具体的に示したことで、日常の勉強と将来の地続きな繋がりを実感させる一助となったことが推察される。また、「社会にはたくさんの職業がある（95%）」「働くことは自分の成長につながる（94%）」や「仕事のやりがいや魅力がわかった（92%）」「仕事をとおして誰かの役に立てることがわかった（91%）」「自分事」として捉え直すための役割を果たしたと考える。

(図4)



④あなたは将来どのような職業を選びたいですか (図5)

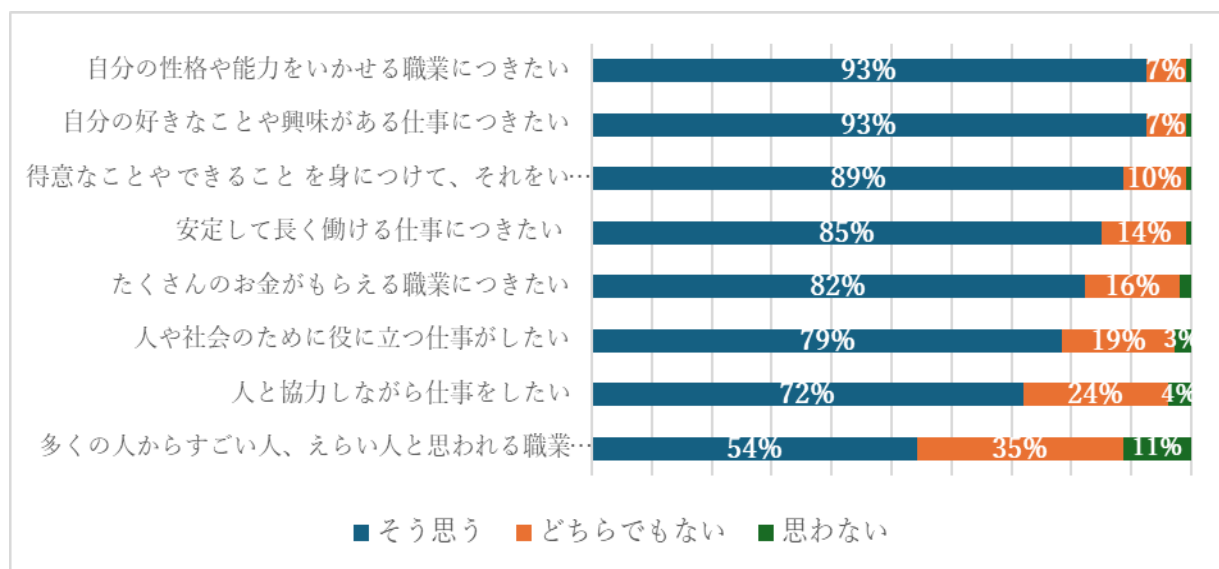
将来の職業選択において、自己実現、経済的安定、社会貢献という多面的な価値観をバランスよく備えていることが明らかになった。事後アンケートの結果、「自分の性格や能力をいかせる職業」および「自分の好きなことや興味がある仕事」が共に93%という極めて高い支持を得ており、自身の内面的な適性や興味と仕事内容がいかにマッチするかという自己実現を最優先する姿勢が明確に示されている。これに「得意なことやできることを身につけて、それをいかせる仕事」が

89.0%で続いており、職業体験プログラムを通じて多様な職業の専門性に触れたことが、自身の持ち味を社会でどう活かすかという思考を深める契機になったと推察される。

一方で、内面的な充足と並行して、現実的な生活基盤への意識も非常に高い。将来への不透明な社会情勢を反映してか、「安定して長く働ける仕事（85%）」や「たくさんのお金がもらえる職業（82%）」も8割を超えており、児童生徒は「夢」を追うだけでなく経済的自立を職業選択の不可欠な要素としてシビアに捉えている様子が見える。また、他者や社会との関わりについても「人や社会のために役に立つ仕事（79%）」や「人と協力しながら仕事をしたい（72%）」といった肯定的な意向が示されている。これは、「仕事をとおして誰かの役に立てることがわかった」とする回答が91%に達している別の設問の結果とも呼応しており、社会貢献やチームワークを仕事の重要な構成要素として認識している実態を裏付けている。

対照的に、「多くの人からすごい人、えらい人と思われる職業」は54%と他の項目に比べて顕著に低く、現代の子どもたちが他者からの外見的な地位や名誉といった評価よりも、自分自身の納得感や実質的な生活の質を重んじる、等身大で本質的なキャリア観を持っていることが示唆されている。本事業による多様なロールモデルとの出会いは、児童生徒が「自分の特性（好き・得意）の活用」を軸に据えつつ、経済的・継続的な安定もしっかりと見据えた、極めてバランスの良い職業選択眼を育むための重要な土壌となったと言える。

(図5)



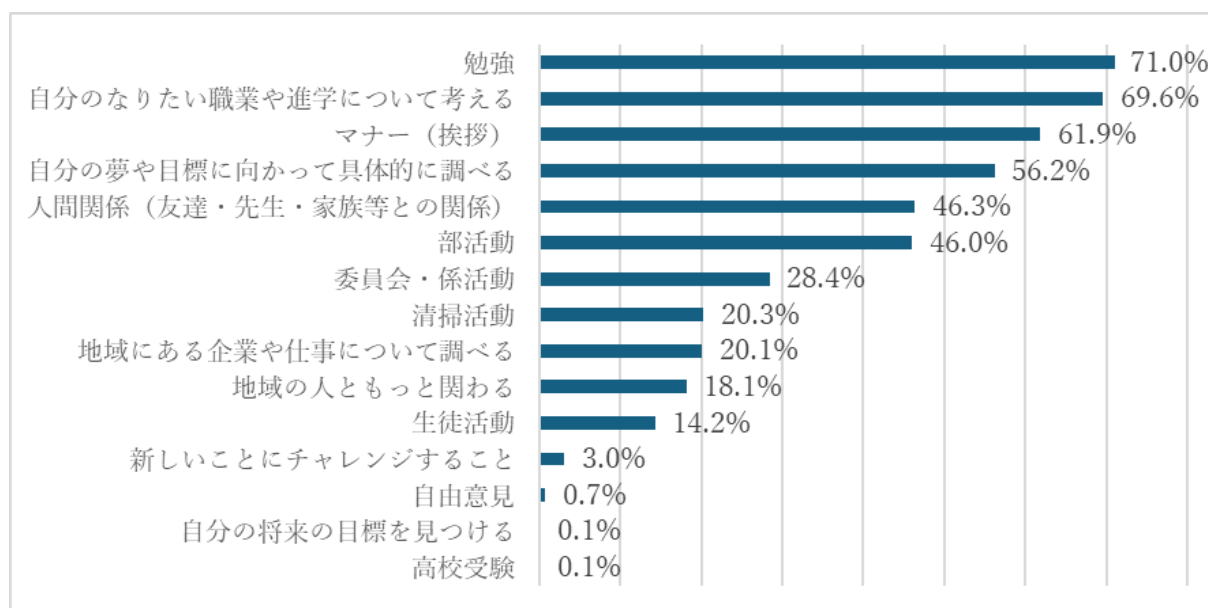
⑤今回の職業体験を受けて、将来に向け、これから頑張りたい、または挑戦してみたいと思ったことはなんですか (図6)

「勉強（71%）」や「自分のなりたい職業や進学について考える（69.6%）」といった、具体的な「今、やるべきこと」への意欲が顕著に現れた。実社会の職業人による体験や講話を通じて「今の学びが将来に繋がっている」という実感が得られたことで、児童生徒の中に「勉強をする意味」が明確に形成され、特に中学生においては進路を見据えた具体的な行動意欲への転換が強く見られた。また、将来に向けた準備として「マナー（挨拶）（61.9%）」や「人間関係（46.3%）」を挙げ

る生徒が非常に多く、専門職から技術だけでなく礼儀やコミュニケーションの重要性を説かれたことが、学校生活を将来の社会生活の基盤として捉え直す契機となった。実際に、松島小学校では「マナー（挨拶）」が92%に達するなど、学齢を問わず社会人としての土台への意識が向上している。部活動や委員会活動への意欲も一定数示されており、アンケートでも「自ら進んで役割に取り組むことができる」という自己認識が事前（42%）から事後（53%）へと向上している点は、仕事における役割や責任を学んだことで、学校内でも主体的に行動しようとする自律的な姿勢が育まれた成果と言える。

一方で、「地域にある企業や仕事について調べる（20.1%）」といった項目は相対的に低い水準に留まっており、自らのキャリアという内面的な関心を地域社会という外的な環境へと広げるには、さらなる地域連携の深化やプログラムの工夫が今後の課題として示唆された。総論として、本事業は児童生徒に対し、将来の夢に向けた「学習への動機付け」と社会人としての土台となる「対人能力の重要性の気づき」を同時に提供することに成功しており、アンケートに表れた行動意欲は、キャリア教育が果たすべき重要な成果を裏付けている。

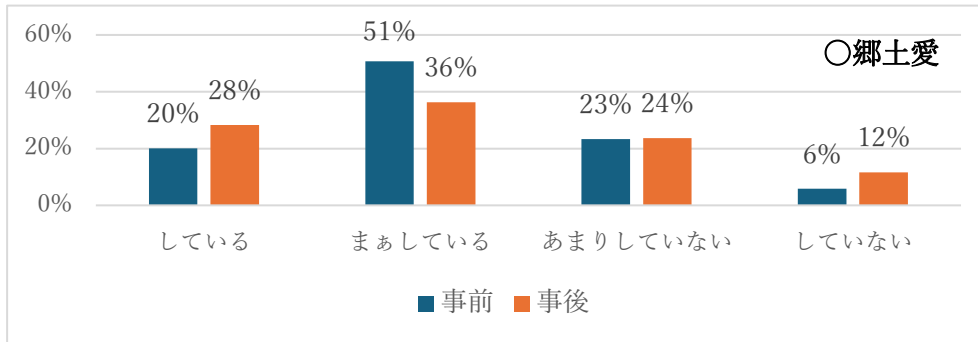
(図6)



■児童・生徒向け事前事後アンケート能力抛型考察／有効回答者数：事前 1170 名・事後 738 名

1. 郷土愛（問1・2）

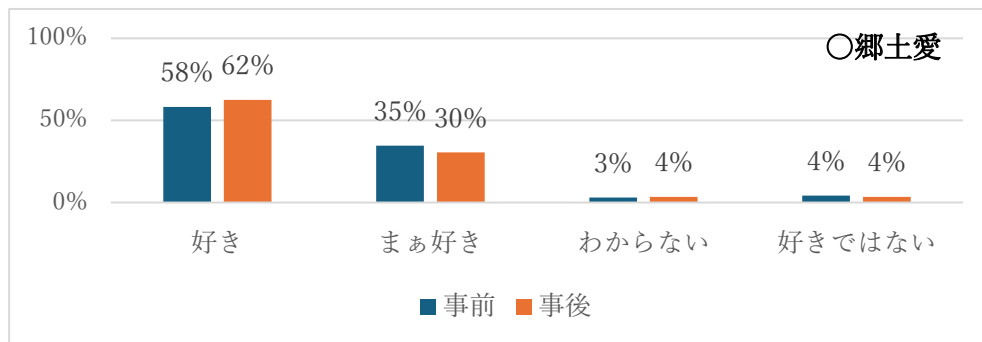
問1. 自分の住んでいる地域のことについてよくわかり、地域の活動や人と関わろうとしていますか。（図1）



地域活動に「取り組んでいる」という強い肯定層が事前の20%から28%へと8ポイント上昇した一方で、「している」「まあしている」を合わせた肯定層全体は71%から64%へと微減し、「していない」層が増加するという二極化が見られた。プロ講師の「生きた言葉」や「本物の体験」に触れたことが、児童生徒にとって「地域を支える大人」との主体的な接点となり、積極的な関心を喚起したと考えられる。

一方で肯定層全体が微減した点は、プロの高度な技術や真剣な姿勢を目の当たりにしたことで、「振り返る（内省）」の力が働いた結果であると推察される。自らの現状を客観的に捉え直したことで、事前の「なんとなくの肯定」が「自分はまだ地域のことを深く知らない」という「自覚的な課題感」へと変化したものと推測できる。

問2. 那覇市のことが好きですか。(図2)

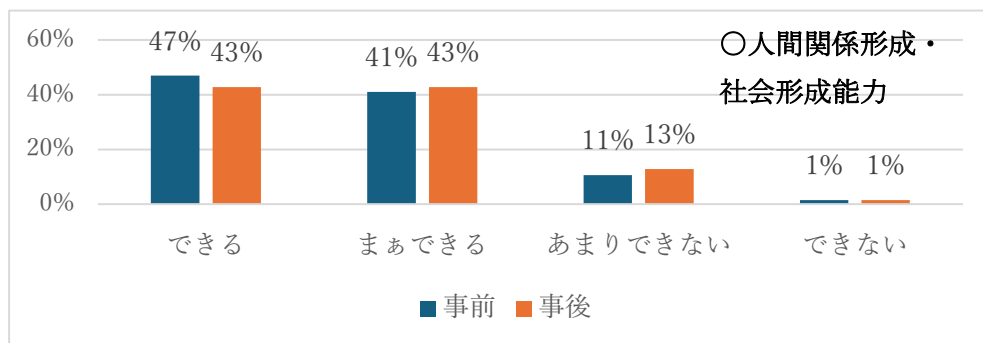


那覇市のことが「好き」と回答した生徒が事前の58%から62%へと向上しており、地域に対する肯定的な感情（郷土愛）が本事業を通じて深まったことが示されている。児童生徒にとって那覇市が、単なる居住地としての場所から、本物の体験とプロの言葉を通じて「自分たちの成長を支え、将来の仕事が営まれている社会」へと再発見されたと考える。

事後アンケートで「地域の人ともっと話してみたい」と感じた生徒が一定数存在することは、本事業が「働くこと」の理解だけでなく、地域を「自らを育む場所」として再定義し、郷土への参画意識の種をまく役割を果たしたことを裏付けている。

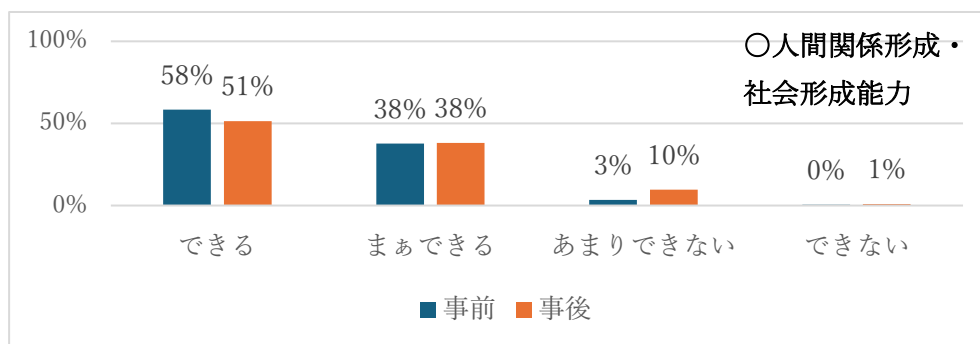
2. 人間関係形成・社会形成能力（問3・8・10）

問3. 自分から進んで返事やあいさつができますか。(図3)



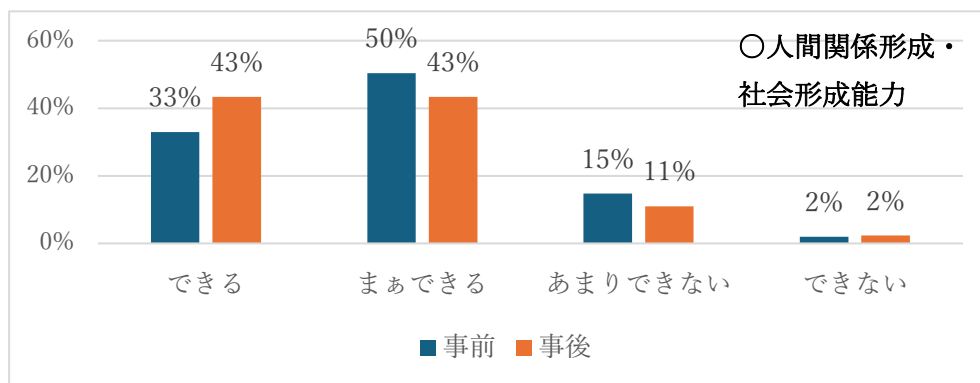
自分から進んで返事や挨拶が「できる」と答えた層が事前の 47%から 43%へ微減し、「まあできる」を合わせた肯定層全体も 88%から 86%へとわずかに減少した。この結果は、プログラムを通じて各講師から「仕事に就くために必要な力」のひとつとして、技術以前に挨拶やマナーの重要性を具体的に説かれたことが影響していると考えられる。実社会の第一線で働く大人の姿勢に触れたことで、児童生徒がこれまでの自分の挨拶を「社会で通用するレベルだったか」とプロの基準で捉え直し、自らの振る舞いをより厳格に評価するようになった内省の表れ(質の高い後退)と推察される。

問 8. 友達(相手)を思いやり、協力し合って学習や活動することができますか。(図 4)



友達と協力する力(問 8)の肯定的な回答が減少した点は、プロの仕事基準に触れて今の自分を客観的に見つめ直した「質の高い内省」の結果と考える。アフレコや専門職の講話や体験を通じ、児童生徒は「仲間と力を合わせることで、より良い仕事ができ、世の中の役に立つ」という仕事の本質に触れた。これにより、事前アンケート取組準拠型 問 3 の「協力は大切(42.2%)」という漠然としたイメージが、事後アンケート取組準拠型 問 4 の 72.0%の生徒が将来は「人と協力して働きたい」と回答しており、他者と共に社会を支えようとする意欲が、より具体的なものになったといえる。

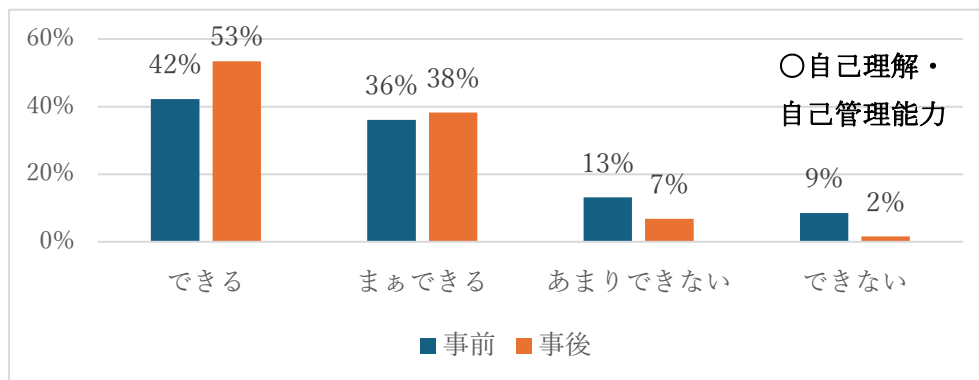
問 10. 友達(相手)の意見を聞き、自分の考えをわかりやすく伝える事ができますか。(図 5)



「できる」が33%から43%へと10ポイント向上した。この変容には、
 主導した事前・事後学習における「心理的安全性の確保」と「対話のプロセス」が貢献していると考えられる。プログラムでは「正解・不正解を問わず、すべての意見がOKである」という受容的な場が作られた。その中で、児童生徒が「なぜ人は働くのか」「自分の興味・関心」「自分の強み」などといった本質的な問いに対し、自らの意見をじっくりと考え、グループワークで共有し合う活動が行われた。このステップを通じて、普段は受動的な児童生徒からも素直な思いが引き出され、「自分の考えには価値がある」という実感が醸成された。こうした承認ベースの対話経験が、自らの考えを伝えることへの自信（自己効力感）の向上に繋がったと推察される。

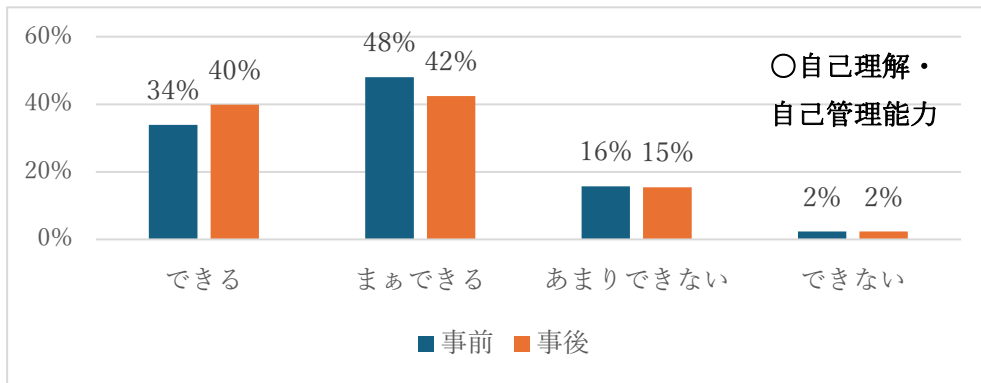
3. 自己理解・自己管理能力 (問4・7・13)

問4. 自ら進んで授業に取り組んだり、係活動や当番活動、委員会活動等の役割に取り組むことができますか。(図6)



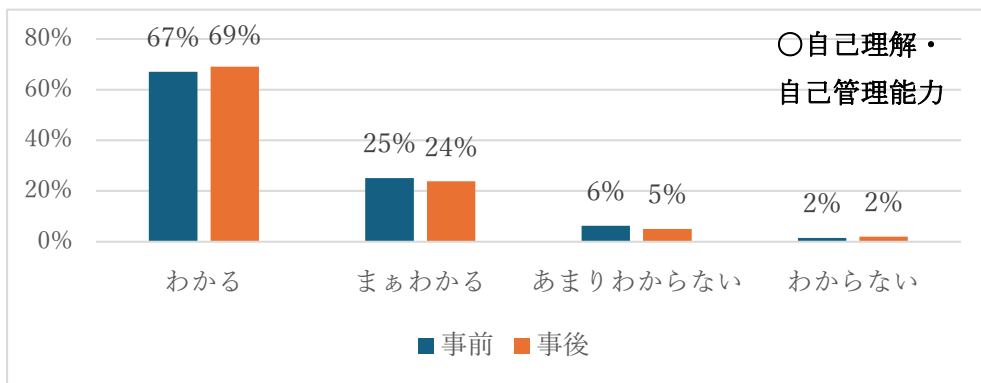
「できる」が42.0%から53.0%へと、11ポイントの上昇を示した。これは、本物の道具を用いた実体験やプロの講師による「仕事の責任」に関する講話により、学校での係・委員会活動を「社会生活の予行演習」として捉え直した結果である。実際に教員からは「働くことの意義を理解し、委員会活動に主体的に取り組む子が増えた」との具体的な行動変容が報告されており、意識変化が実際の行動へと結びついた大きな成果が確認できる。

問7. 自分で「やる」と決めたことは最後まで続けることができますか。(図7)



「できる」が34.0%から40.0%へと向上した背景には、プロの講師から仕事の「裏側や大変さ」を含むリアルな体験談を聞き、一つの成果を出すための試行錯誤を知ったことで、安易に諦めないプロの姿勢が基準として生徒に刻まれたことが挙げられる。実際に「本物の道具」を用いて作業を完遂した成功体験や、事後アンケートで88.0%の生徒が「夢や目標に向かって努力することの大切さがわかった」と回答している結果からも、仕事の本質にある「粘り強さ」を自分事として捉え直し、自らの実行力に対する自信（自己効力感）を高めたことが伺える。

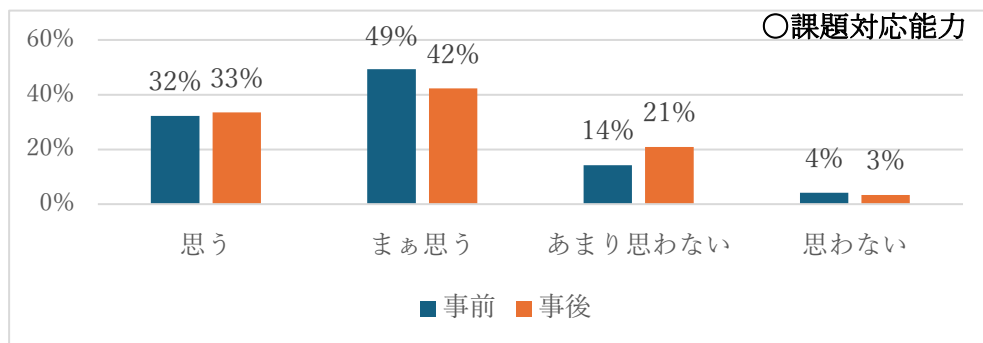
問13. 自分の得意なことや好きなことはわかりますか。(図8)



「わかる」が事前の67%から69%へと微増したが、これは職業人の基準に触れたことで、自己の能力をより客観的に見つめ直した結果であると推察される。事後学習で「良い所リスト」を用い、自身の性格や行動特性を言語化したことで、それまでの漠然とした「好き・得意」が「職業的な適性(内的キャリア)」を伴う理解へと深化している。その根拠として、将来の進路について「自分の性格や能力をいかせる職業につきたい」と回答した生徒が93%(事後アンケート取組準拠型)という極めて高い水準に達している。この自己理解の深化は、那覇市が目指す「自立的に未来を切り拓く人材」が将来を「みとおす」ための確固たる心理的土台が築かれた成果として評価できる。

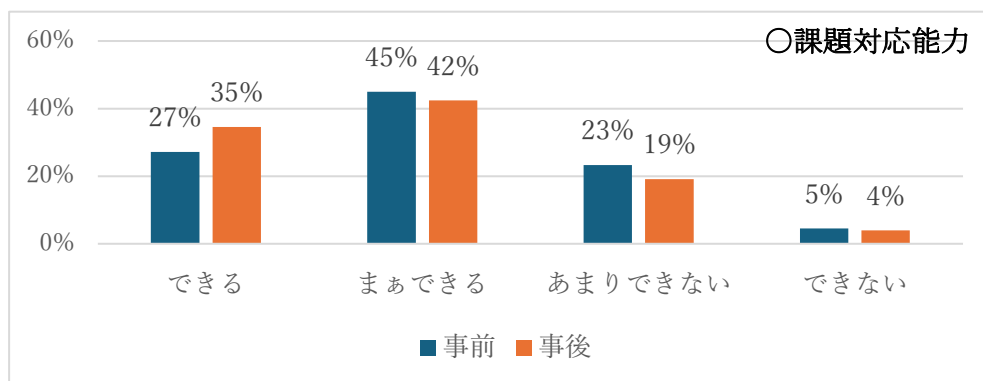
4. 課題対応能力 (問5・6)

問5. 授業で学んでいることを「もっと知りたい」と思いますか。(図9)



「もっと知りたい」が事前の32%から33%へとほぼ横ばいであり、肯定層全体（思う・まあ思う）では81%から75%へと微減した。この数値の推移は、職業人の高度な専門スキルや「仕事のリアルな体験」に触れたことで、児童生徒が「学校の勉強」と「実社会の専門知識」を明確に区別し始めた結果と推察される。事後アンケート取組準拠型では「学校で学んでいることが将来の仕事に役立つと感じた」とする回答が松島中学校で83.5%、古蔵中学校で94.0%という極めて高い水準を示している。さらに、今後の目標として71.0%の生徒が「勉強」を挙げていることから、単なる興味本位の「知りたい」という段階から、将来を見据えた「目的意識を伴う学習意欲」へと質的に変容したと言える。

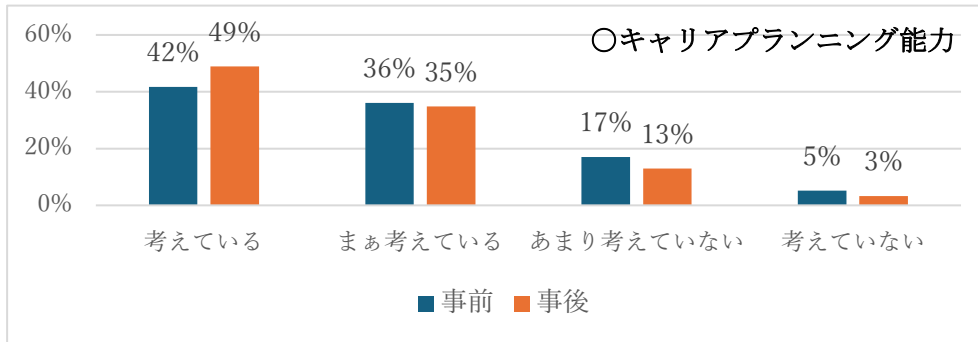
問6. 「もっと知りたい」と思うことを先生に質問したり調べたりすることができますか。(図10)



「できる」という強い肯定層は、事前の27%から35%へと8ポイントの大幅な上昇を見せた。この向上の背景には、プロの講師による「本物の体験」を通じた知的好奇心の喚起がある。講師側からは「スポンジのように吸収し、質問が飛び交う状況があった」と報告されており、教科書にはないプロの「生きた言葉」が、児童生徒の「問いを立てる力」を強く引き出したと考えられる。

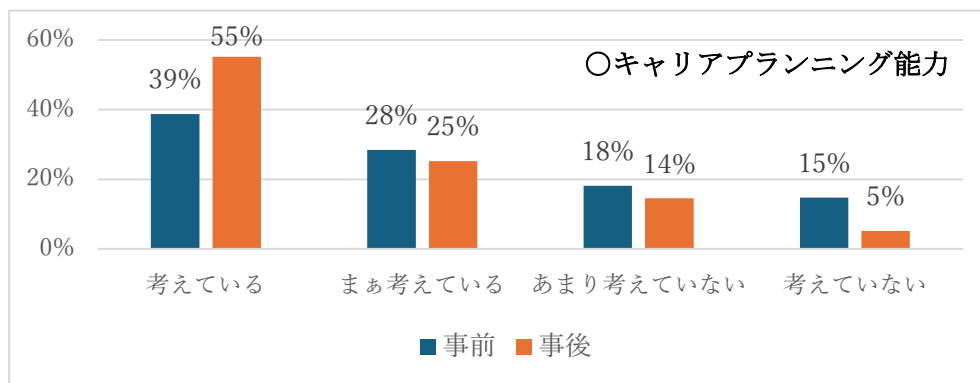
5. キャリアプランニング能力 (問9・11・12)

問9. 将来の夢や目標に向けて、今しなければならぬことを考えていますか。(図11)



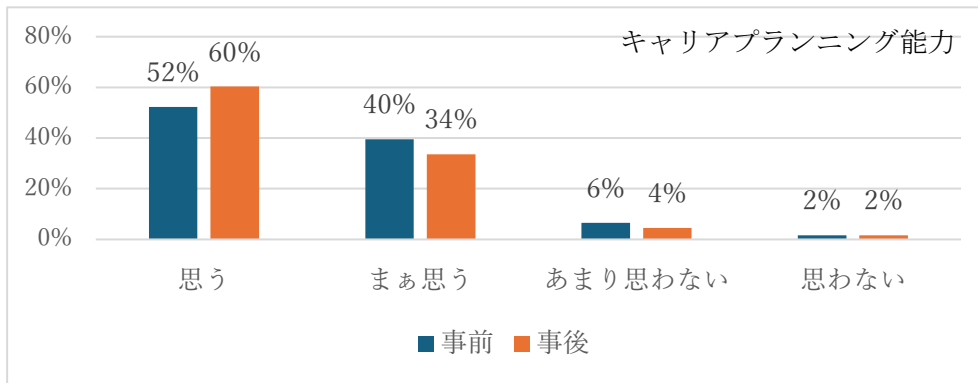
将来の夢に向け「今すべきことを考えている」は事前の42%から49%へと7ポイント向上した。この変容は、プロ講師から職業への具体的な「道のり」や「社会に必要な力」を学んだこと、さらに事後学習で「なりたい姿」から逆算して「今、何をすべきか」を自問するプロセスを得た成果と考えられる。取組準拠型事後アンケートで71.0%が「勉強」、28.4%が「委員会・係活動」を具体的な目標に挙げたことは、小さな一歩となる行動指針へと変換されと考える。

問 11. 将来の夢や、なりたい（就きたい）仕事について考えていますか。（図 1 2）



将来の夢や就きたい仕事について「考えている」は、事前の39.0%から55.0%へと16ポイントの大幅な上昇を見せ、肯定層全体でも67.0%から80.0%へと拡大した。この伸びは、多様な職業に触れて興味・関心を広げたことに加え、事前学習にて「多くの職業を知ることから自分に合った職業を見出せる」ことや、「自分の興味・関心、強み、大切にしたいこと」を軸に職業を考える重要性を学んだことで、自己理解と職業観が深く結びついた結果と考えられる。その裏付けとして、事後アンケートでは67.0%の生徒が「必要な資格や知識、勉強すべきことが見えてきた」と回答しており、自由記述においても「将来の夢が決まっていなかったが、自分の得意を活かせる職業につきたいと思った」や「自分の好きなことがどう仕事に繋がっているかわかって嬉しかった」といった声が多数寄せられていることから、「知らない職業にはなれない」という気づきを経て「なりたい自分」の解像度が飛躍的に高まったと言える。

問 12. 学校での学習や様々な活動は将来仕事をするにつながっていると思いますか。（図 13）



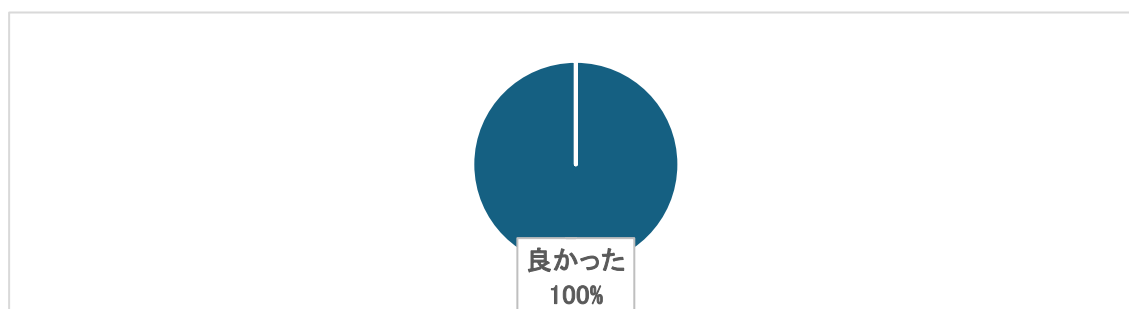
学校の学習や活動が将来につながっていると「思う」強い肯定層は、事前の52%から60%へと8ポイント上昇した。特筆すべきは学校別のデータであり、事後アンケートで「学校での学びが将来に役立つ」と感じた割合は、松島中学校で83.5%、古蔵中学校で94.0%という極めて高い水準に達している。これは、各講師が講話や体験学習の中で、どんな力が必要なのか、道のりなどを織り交ぜてくれた成果である。児童生徒にとって、日々の勉強は「やらされるもの」から「自分の未来を切り拓くための準備」へと質的な変化を遂げたと言える。

2. 教員向けアンケート調査結果

■教員向けアンケート考察／有効回答者数：28名回答

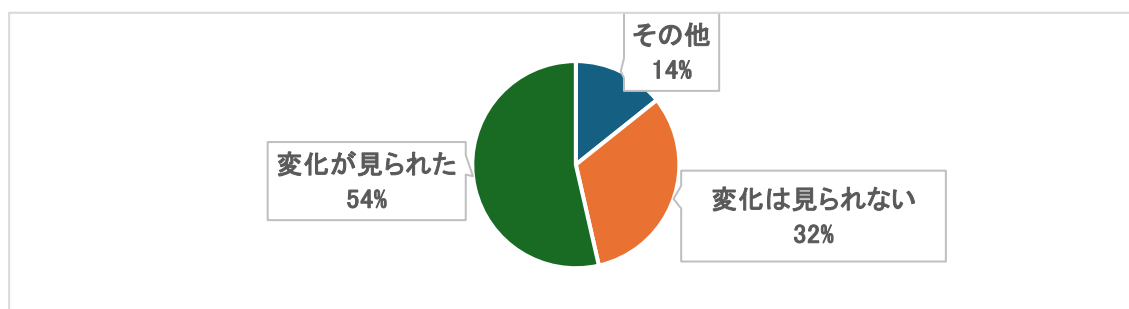
本事業に対する教員の満足度は、全回答者が「良かった」（図1）と回答する100%という極めて高い結果となった。学校単独では提供し得ない「職業人による実践的な体験」と「生の声」にあり、従来の数日間にわたる単一の職場体験と比較して、1日で複数の業種を体験できる仕組みが、児童生徒の職業に対する視野を広げる上で非常に有効であると評価されている。特に、本物の道具や機材を用いた体験学習は児童生徒の知的好奇心を強く刺激し、普段の授業では見られないような「目を輝かせて取り組む姿」が多くの教室で確認された。

（図1）「職業体験プログラム」を実施していかがでしたか。



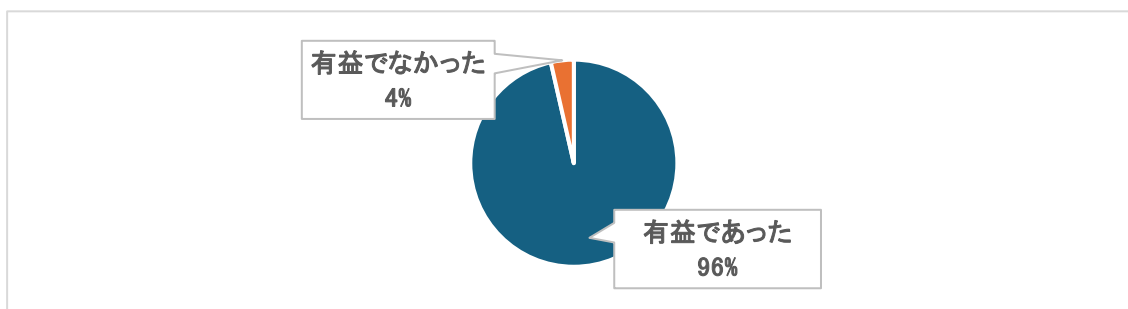
実施後、54%の教員が児童生徒の態度に明らかな変容を認めている（図2）。具体的な変化として、「将来の夢に向けて意欲的に勉強を始めるようになった」「働くことの意義を理解し、委員会・係活動に主体的に取り組む子が増えた」といった、日常の学校生活へのポジティブな還元が報告された。[redacted]教員でも親でもない「斜めの関係」を構築し、心理的安全性が確保された学びの場としての意義も強調されている。

（図2）実施後、児童生徒の学習態度や生活態度に変化は見られましたか。

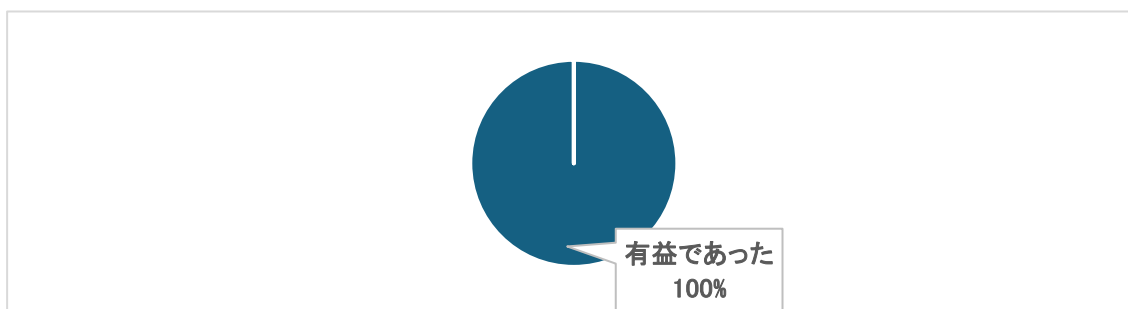


さらに、事前学習（有益性96%）および事後学習（有益性100%）についても極めて高く評価されており（図3.4）、自己理解のプログラムが、体験を単なる思い出に留めず「今の学びと将来の接続」へと昇華させる重要な役割を果たしている。

（図3）事前学習の内容は「職業体験プログラム」に対して有益でしたか。



(図4) 事後学習の内容は「職業体験プログラム」に対して有益でしたか。



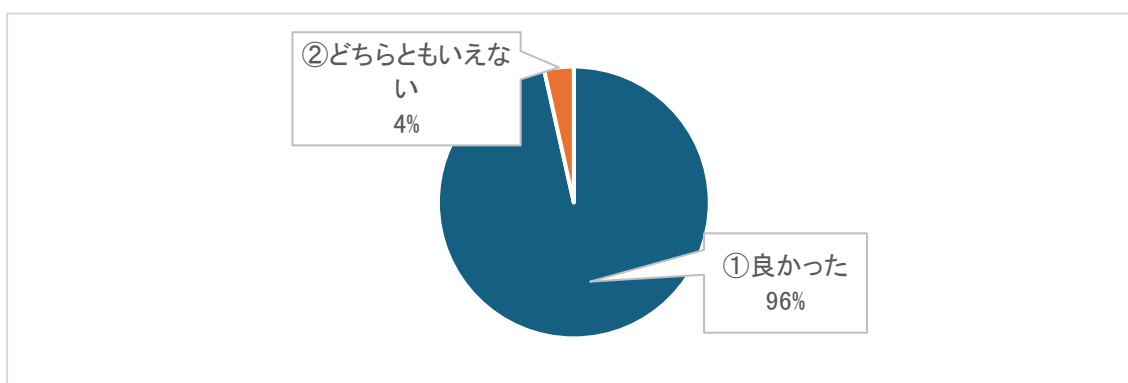
今後の持続可能性については、「教員のみでの運営は限界がある」という多数意見をどう解決し、「プラットフォーム構想」を早期実現していくことが、那覇市のキャリア教育を安定的に自走させるための必須条件であると考察される。

3. 協力事業者・保護者等への調査結果

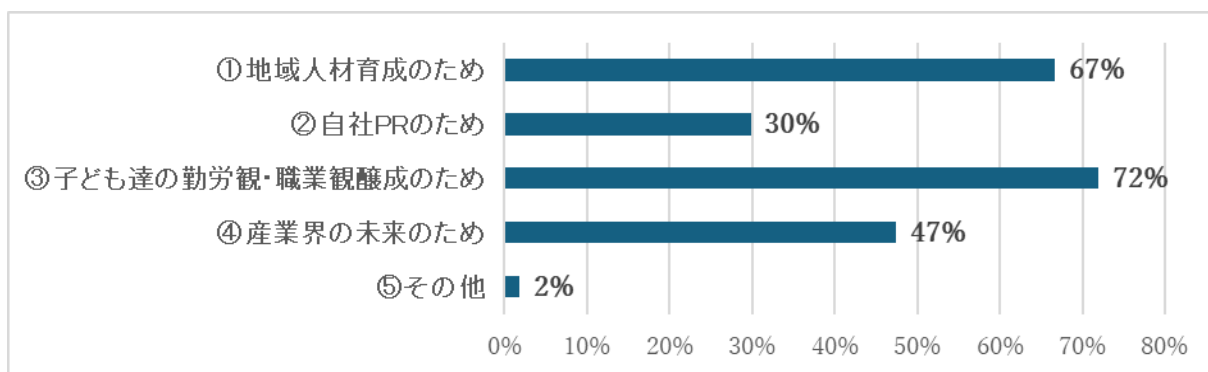
■協力事業者向けアンケート考察／有効回答者数：57 事業所（延べ）

本事業に対する事業所の満足度は96%が「良かった」と回答しており(図1)、産業界からの極めて強い支持と期待が示されている。協力の主な動機は「子どもたちの勤労観・職業観の醸成(72%)」や「地域人材の育成(67%)」であり、次世代を地域全体で育もうとする高い使命感がうかがえる(図2)。その理由として、生徒が一生懸命かつ前向きに取り組む姿や、ワークシートへの熱心な記入、さらには「働くことはお金のためだけではない」といった職業理解の深化や将来の視野拡大に寄与できた手応えが挙げられている。講師から見た児童生徒の態度は、「積極的・意欲的な取り組み」や「聴く態度・マナーの良さ」が高く評価された。職業人の「生きた言葉」や「本物の道具」に触れた生徒たちが「スポンジのように吸収し、質問が飛び交う状況」や、不登校傾向の生徒が楽しそうに参加する姿が報告されており、実社会のリアリティが知的好奇心を刺激する強力なフックとなったことが裏付けられている。

(図1)職業体験プログラムを行って、いかがでしたか

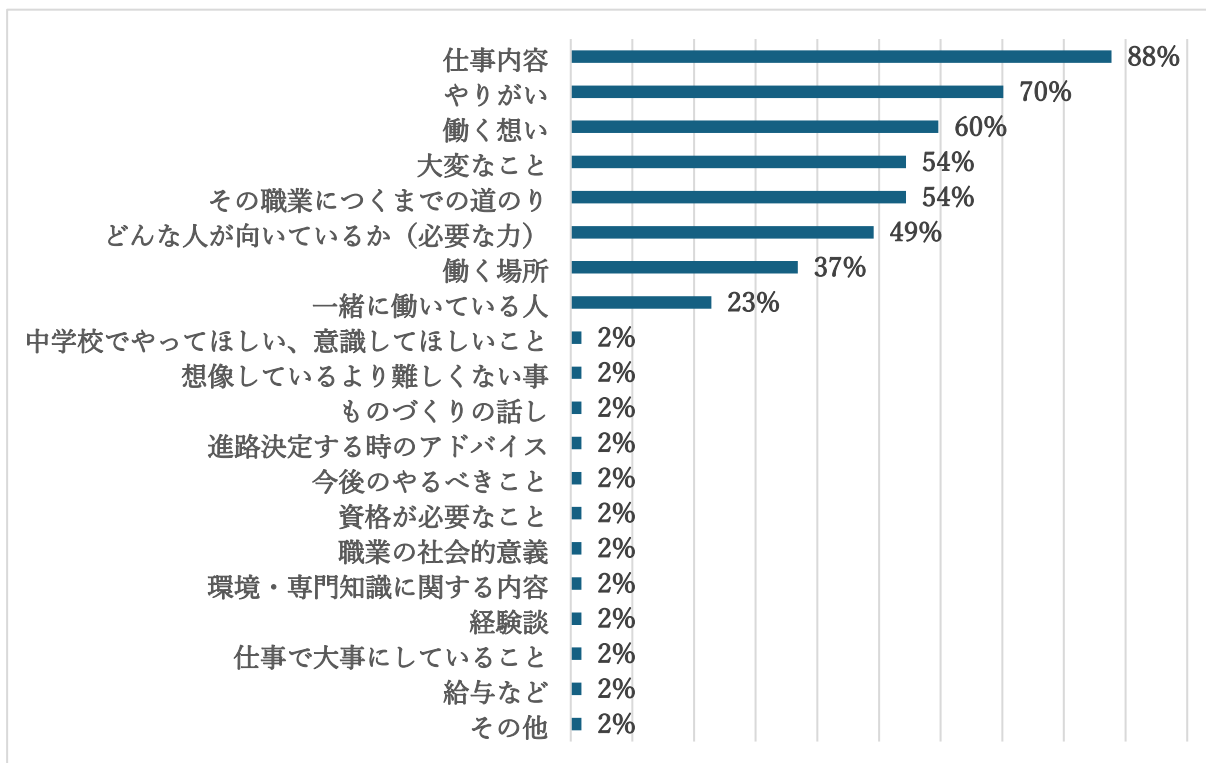


(図2)今回、本事業にご協力いただいた理由を教えてください



講話内容については、「仕事内容(88%)」をはじめ、「やりがい(70%)」「働く想い(60%)」「職業に就くまでの道のり(54%)」といった、職業人としての人生観を含む情報がバランスよく提示された(図3)。講師側も、「リアルな体験談」が子どもたちの心に響くという手応えを得ている。また、本事業は講師自身にとっても、「自らの学びや仕事を見つめ直し、働く意義を再認識する機会」となっており、未来の那覇市を担う人材を育てることが、社会人側のリフレクション(内省)やモチベーション向上に繋がるという副次的な教育効果も確認できる。

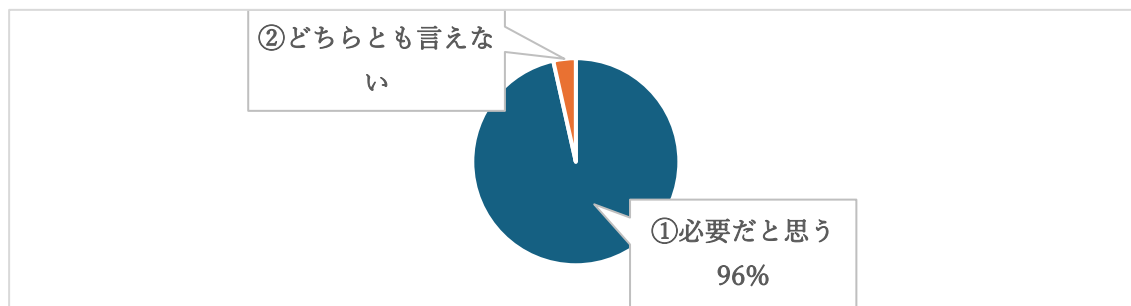
(図3)講話にはどのような内容を盛り込みましたか。



特筆すべきは、問 10 の「本事業のようなキャリア教育の必要性」に対し、96%が「必要だと思う」と回答している点である(図 4)。その理由として、「将来の選択肢の拡大とミスマッチ防止」、早くから働くことを考える「早期のビジョン・キャリア形成」、そして将来のイメージが湧くことによる「学習意欲や学校生活へのポジティブな影響」が挙げられた。

今後の持続的な運用に向けては、「50 分という時間の制約」による質疑応答の不足や、「事前に生徒の興味関心や学年特性を把握したい」という要望、さらには「実施後の生徒の感想を企業側に還元する仕組み」の必要性が課題として浮き彫りになった。協力事業所の 94%が次年度以降も「協力したい」と回答していることから、今後はコーディネート機能を担う「プラットフォーム」の確立を通じて、学校と産業界が相互に情報を共有し、教育の質の標準化と事業所側の負担軽減を両立させることが、那覇市のキャリア教育を安定的に自走させる鍵になると考察される。

(図 4) 本事業のようなキャリア教育は、児童生徒にとって必要だと思いますか



■保護者向けアンケート考察／有効回答者数：9名

本事業に対する保護者の満足度は極めて高く、参観した保護者の100%が「とても良かった」または「良かった」と回答している（図1）。また、問4の「次年度以降も同様の職業体験プログラムがあると良いか」という設問に対しても、回答者全員（100%）が「あると良い」と賛成しており（図2）、継続的な実施に対する家庭からの強い要望が示された。

特筆すべきは、授業中の児童生徒の変容に対する驚きである。保護者からは「今まで見たことがないくらい講師の話に集中していた」「真剣なまなざしで聞き入っていた」「全員が前のめりだった」といった感想が多数寄せられており、職業人による専門的な指導と体験が、子どもたちの主体的な姿勢を引き出す強力なトリガーとなったことが伺える。

教育内容については、専門知識を持つ講師による「実社会のリアリティ」の提示が高く評価された。単なる職業紹介に留まらず、その業種の将来性や「好きだからと言ってできる仕事ではない」といった職業人の厳しい側面（リアルな声）に触れたことが、子どもたちの心に深く響いたと保護者は捉えている。また、日常の授業では得られない専門的な工具を用いた体験や、裏方の仕事の喜びを知る機会も、貴重な経験として歓迎されている。

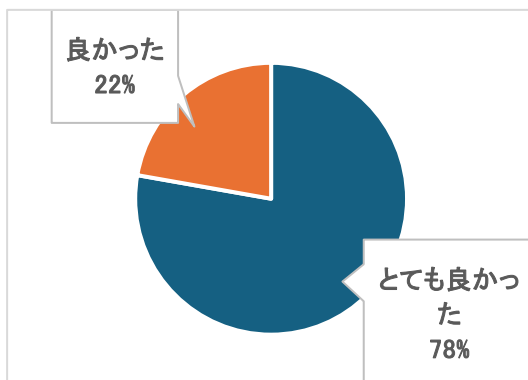
今回の大きな特徴は、本事業を「授業参観」中での実施となり、保護者を巻き込んだ点にある。協力事業所（講師側）からは、「子どもを育てる立場の教員や保護者にも最新の仕事への知見を広げてほしい」という声が多く上がっている。事前アンケート取組準拠型によれば、児童生徒が働くことの情報を得る最大の源泉は「保護者（78.1%）」である。しかし、保護者自身の職業観が、日々の多忙さによる「仕事の不満」や「疲労」といった断片的なイメージに偏りがちな実態もあり、これが子どもたちの進路選択における世代間の乖離やミスマッチを招く一因となっていた。

この課題に対し、保護者が子どもと共に最新の産業理解を深める機会を設けた意義は極めて大きい。講師側からも「保護者が参観することで、世代間の職業観の乖離を埋めることができる」との期待が寄せられている。

総じて、本事業を通じて地域社会全体で子どもを育む文化の醸成に向け、保護者に対して正しい最新産業理解を促す機会を創出できたことは、極めて大きな価値があると言える

（図1）

今日の職業体験プログラムをご覧になって、どのように感じましたか？



（図2）

次年度以降も同様の職業体験プログラムがあると良いと思いますか？

